

令和 2 年国勢調査結果のあらまし

松本市 総合戦略局

D X 推進本部

出典「国勢調査結果」(総務省統計局)

あらしについて

1 趣旨

令和 2 年 10 月 1 日を基準日として実施された国勢調査の調査結果から、主要な項目について松本市の状況を集計し、他市とも比較しながら特徴的と思われる事柄についてまとめたものです。

国勢調査は様々な統計調査の基礎となる調査であるとともに、全市民と多くの調査員の協力のもとに成り立っており、その調査結果を還元する必要があると考えています。このあらしでは、都市のあり様を示す代表的な指標である、人口や年齢構成、労働力の状態等の主要な項目について集計しています。

また、誰でも利用可能なオープンデータである「e-Stat（国が開設する政府統計のポータルサイト）」からデータを取得することで、身近な地域の分析が可能なことを多くの方に知っていただき、統計の有用性の認識や、EBPM推進に役立つことを期待しています。

2 資料の作成方法について

(1) 基礎となるデータ

ア 出典

このあらしで使用したデータは、全て「e-Stat（国が開設する政府統計のポータルサイト <https://www.e-stat.go.jp/>）」から抽出したものです。

※ 全国 47 都道府県の年齢構成別人口や、過年度の小地域（市町村内の町丁・字等）のデータ等の約 200 ファイルから作成

イ 参考資料等

e-Stat 上の「j-statmap」や「統計 dash board」、長野県が開設している「統計ステーションなごの」等の資料や数値を参考にしています。

(2) 国勢調査結果の公表について

ア 令和 3 年 11 月 30 日に人口等基本集計が、初めての調査結果として公表（以降、項目別に、順次調査結果が公表される。）

ウ 令和 4 年 2 月から 8 月にかけて小地域の集計結果が公表

エ 国が当初から公表した調査結果は令和 4 年に公表済み。今後も小規模な更新を続けながら、令和 6 年度中に最終報告書を公表予定

3 用語について

(1) 人口

調査した人口は「常住人口」です。常住人口とは、調査時（令和2年10月1日午前零時現在）に常住している場所で調査する方法による人口をいい、当該住居に3か月以上にわたって住んでいる者、又は住むことになっている者を集計しています。

(2) 小地域

国勢調査では、全数調査の利点を活かし、市区町村よりも小さい単位である町丁・字等の別に年齢5歳階級別人口や家族類型別世帯数等について集計しています。

本あらしでは、松本市の252の大字・町丁を69地域にまとめて（例：県1丁目、県2丁目、県3丁目 → 県）集計しています。

なお、一つの町丁が複数の地区に分かれている場合があるため、行政区としての35地区別の集計は出来ません。

(3) 核家族

国勢調査では、核家族世帯として「夫婦のみの世帯」、「夫婦と子供から成る世帯」、「男親と子供から成る世帯」、「女親と子供から成る世帯」に区分しています。

(4) 流入人口・流出人口

国勢調査では、就業地・就学地の調査項目で「他市区町村で従業・通学」という選択肢があり、常住地が松本市の方のこの集計値が「松本市からの流出人口」になります。逆に、常住地が他市町村で「他市区町村で従業・通学」を選択し、従業・通学先の市町村が松本市の方の集計値が松本市への流入人口となります。

(5) 昼間人口夜間人口と昼夜間人口比率

- ・ 昼間人口 = 常住人口 + 流入人口 - 流出人口
- ・ 夜間人口 = 常住人口
- ・ 昼夜間人口比率 = 昼間人口 / 夜間人口 × 100

1 人口・世帯数の概況

松本市の人口・世帯数

世帯数	総数	男	女
104,934 世帯	241,145 人	118,271 人	122,874 人

○ 前回調査（H27）から人口は減少、世帯数は増加

本市の総世帯数は、104,934 世帯となり前回調査の 100,173 世帯と比較して 4,761 世帯(4.8%)増加しました。

総人口は 241,145 人となり、前回調査の 243,293 人と比較して 2,148 人(△0.9%)減少しました。

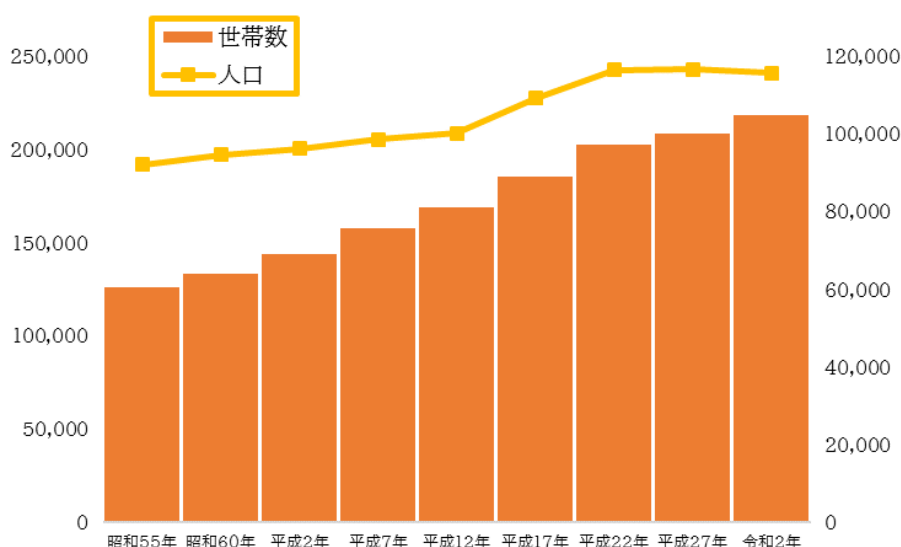
1 世帯あたり人口は 2.30 人となり、1 世帯あたり人口の減少傾向が続いています。

表-1 松本市全体の世帯数・人口推移(昭和 55 年～令和 2 年)

年	世帯数	人口(人)			現市域から見た		一世帯あたり人口(人)
		総数(人)	男(人)	女(女)	人口(人)	人口増減率(%)	
昭和55年	60,589	192,085	93,731	98,354	223,496	4.2	3.17
昭和60年	64,192	197,340	96,803	100,537	229,917	2.9	3.07
平成2年	69,060	200,715	98,851	101,864	233,756	1.7	2.91
平成7年	75,899	205,523	101,764	103,759	239,539	2.5	2.71
平成12年	81,196	208,970	103,534	105,436	243,465	1.6	2.57
平成17年	89,266	227,627	112,083	115,544	242,541	△ 0.4	2.55
平成22年	97,303	243,037	119,271	123,766	243,037	0.2	2.5
平成27年	100,173	243,293	119,479	123,814	243,293	0.1	2.43
令和2年	104,934	241,145	118,271	122,874	241,145	△ 0.9	2.3

※「現市域からみた人口」とは現在の市域に組み替えたときの数値です。

グラフ-1 世帯数・人口推移(昭和 55 年～令和 2 年)



※グラフは合併前の市域は含みません。

2 年齢3区分人口構成

(1) 年齢3区分人口構成の推移

年少人口・生産年齢人口・老年人口の年齢3区分の人口構成は、年少人口が30,107人で全体の12.8%、生産年齢人口は139,128人で59.0%、老年人口は66,647人で28.3%となっています。

年少人口割合と生産年齢人口割合は減少し、老年人口割合は増加する少子高齢化の傾向が続いています。

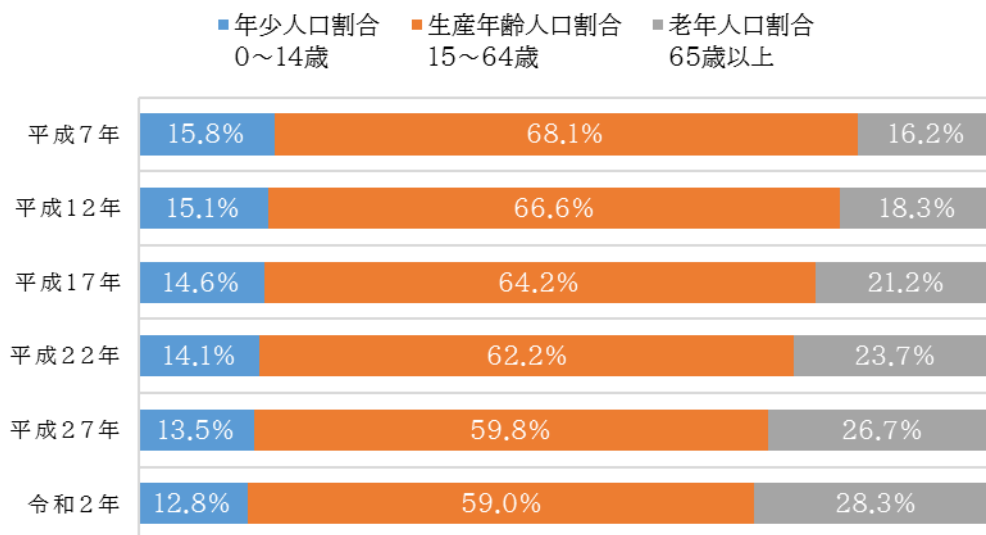
※平成17年、22年の年少人口と生産年齢人口の増加は、市町村合併の影響によるもの

表-2 年齢3区分人口構成

年齢3区分人口	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
年少人口(人) (0~14歳)	32,440	31,450	33,168	34,169	32,294	30,107
生産年齢人口(人) (15~64歳)	139,867	139,073	146,219	150,582	143,259	139,128
老年人口(人) (65歳以上)	33,211	38,311	48,217	57,352	64,009	66,647

※年齢不詳者を除く

グラフ-2 年齢3区分別人口構成の推移と比較



※年齢不詳者を除く

(2) 小地域集計における年齢3区分人口構成の推移

年少人口割合は空港東、両島、井川城、和田、石芝地域の割合が高い状況です。

生産年齢人口割合は美須々、桐、征矢野、高宮、出川町地域の割合が高く、特に美須々は平成27年国勢調査(68.8%)と令和2年国勢調査(72.4%)で3.6%増加となりました。

老年人口割合は大字蟻ヶ崎、奈川、丸の内、入山辺、四賀地域が高い状況となっており、山間地だけでなく、市中心部でも高齢化が進展した地域があります。

松本市のほとんどの地域で年少人口割合と生産年齢人口割合の減少、老年人口割合の増加が続いています。

表-3 平成7年～令和2年国勢調査における年少人口割合の変化

順位	平成7年		平成12年		平成17年		平成22年		平成27年		令和2年	
	地域名	年少人口割合	地域名	年少人口割合	地域名	年少人口割合	地域名	年少人口割合	地域名	年少人口割合	地域名	年少人口割合
1	中山台	27.5%	双葉	24.5%	双葉	21.6%	空港東	24.5%	空港東	24.0%	空港東	19.1%
2	双葉	24.5%	並柳	22.8%	並柳	21.2%	双葉	19.9%	井川城	18.2%	両島	17.3%
3	並柳	23.9%	中山台	22.8%	征矢野	19.9%	並柳	18.1%	和田	17.1%	井川城	17.2%
4	寿台	20.3%	寿台	18.7%	石芝	19.2%	征矢野	17.8%	梓川	17.0%	和田	16.4%
5	石芝	20.1%	石芝	18.7%	寿	17.5%	南原	17.4%	宮田	16.9%	石芝	15.5%
6	南原	19.7%	寿	18.2%	空港東	17.4%	井川城	17.3%	征矢野	16.2%	蟻ヶ崎台	15.2%
7	寿	19.4%	島内	18.0%	南原	17.2%	梓川	17.2%	並柳	16.2%	梓川	14.9%
8	沢村	18.6%	征矢野	18.0%	沢村	17.2%	寿	16.8%	両島	15.8%	笹部	14.7%
9	内田	18.6%	沢村	17.7%	島内	17.1%	石芝	16.8%	沢村	15.6%	島内	14.6%
10	島内	18.6%	宮田	17.6%	出川町	16.9%	和田	16.3%	寿	15.6%	沢村	14.6%

表-4 平成7年～令和2年国勢調査における生産年齢人口割合の変化

順位	平成7年		平成12年		平成17年		平成22年		平成27年		令和2年	
	地域名	生産年齢人口割合	地域名	生産年齢人口割合	地域名	生産年齢人口割合	地域名	生産年齢人口割合	地域名	生産年齢人口割合	地域名	生産年齢人口割合
1	桐	77.9%	桐	76.4%	桐	76.7%	桐	75.8%	桐	72.1%	美須々	72.4%
2	高宮	77.8%	高宮	76.1%	高宮	73.7%	中山台	72.7%	高宮	70.1%	桐	70.5%
3	空港東	77.2%	空港東	74.7%	中山台	72.7%	高宮	71.6%	美須々	68.8%	征矢野	68.8%
4	井川城	73.2%	石芝	71.8%	井川城	70.8%	美須々	69.6%	出川町	67.7%	高宮	68.3%
5	筑摩	72.6%	美須々	71.4%	旭	69.6%	井川城	68.6%	征矢野	67.1%	出川町	68.0%
6	征矢野	72.4%	井川城	71.3%	石芝	69.5%	征矢野	68.1%	井川城	66.9%	井川城	67.6%
7	石芝	71.9%	南原	71.2%	美須々	68.9%	石芝	67.4%	出川	66.7%	出川	67.0%
8	蟻ヶ崎台	71.7%	旭	70.5%	空港東	68.6%	筑摩	67.3%	女鳥羽	66.6%	白板	66.5%
9	両島	71.5%	征矢野	70.3%	征矢野	68.0%	女鳥羽	67.2%	中条	66.2%	筑摩	66.0%
10	南原	71.5%	筑摩	70.0%	岡田	67.8%	並柳	66.9%	旭	66.1%	女鳥羽	64.6%

表-5 平成7年～令和2年国勢調査における老年人口割合の変化

順位	平成7年		平成12年		平成17年		平成22年		平成27年		令和2年	
	地域名	老年人口割合	地域名	老年人口割合	地域名	老年人口割合	地域名	老年人口割合	地域名	老年人口割合	地域名	老年人口割合
1	丸の内	33.7%	丸の内	37.9%	城西	39.8%	城西	45.0%	大字蟻ヶ崎	49.9%	大字蟻ヶ崎	55.4%
2	城西	29.5%	城西	34.9%	丸の内	39.4%	奈川	43.5%	丸の内	48.8%	奈川	53.5%
3	大手	28.0%	入山辺	32.5%	奈川	37.0%	大字蟻ヶ崎	41.6%	奈川	47.4%	丸の内	52.5%
4	大字蟻ヶ崎	27.9%	巾上	31.9%	入山辺	36.9%	丸の内	41.3%	巾上	44.7%	入山辺	46.7%
5	四賀	27.8%	四賀	31.7%	大字蟻ヶ崎	35.9%	入山辺	40.8%	入山辺	44.2%	四賀	46.2%
6	入山辺	27.6%	奈川	30.9%	巾上	35.4%	巾上	37.7%	蟻ヶ崎台	41.6%	中山	43.9%
7	奈川	27.1%	本庄	30.8%	四賀	33.1%	四賀	36.4%	四賀	40.9%	巾上	42.6%
8	中央	26.9%	深志	30.2%	深志	32.3%	中山	35.3%	中山	40.6%	寿台	41.8%
9	本庄	26.8%	大手	29.3%	中央	32.1%	蟻ヶ崎台	34.8%	寿台	39.2%	新橋	41.8%
10	城東	26.3%	城東	29.1%	本庄	31.1%	中央	33.6%	新橋	37.3%	芳野	39.4%

※年齢不詳者を除く

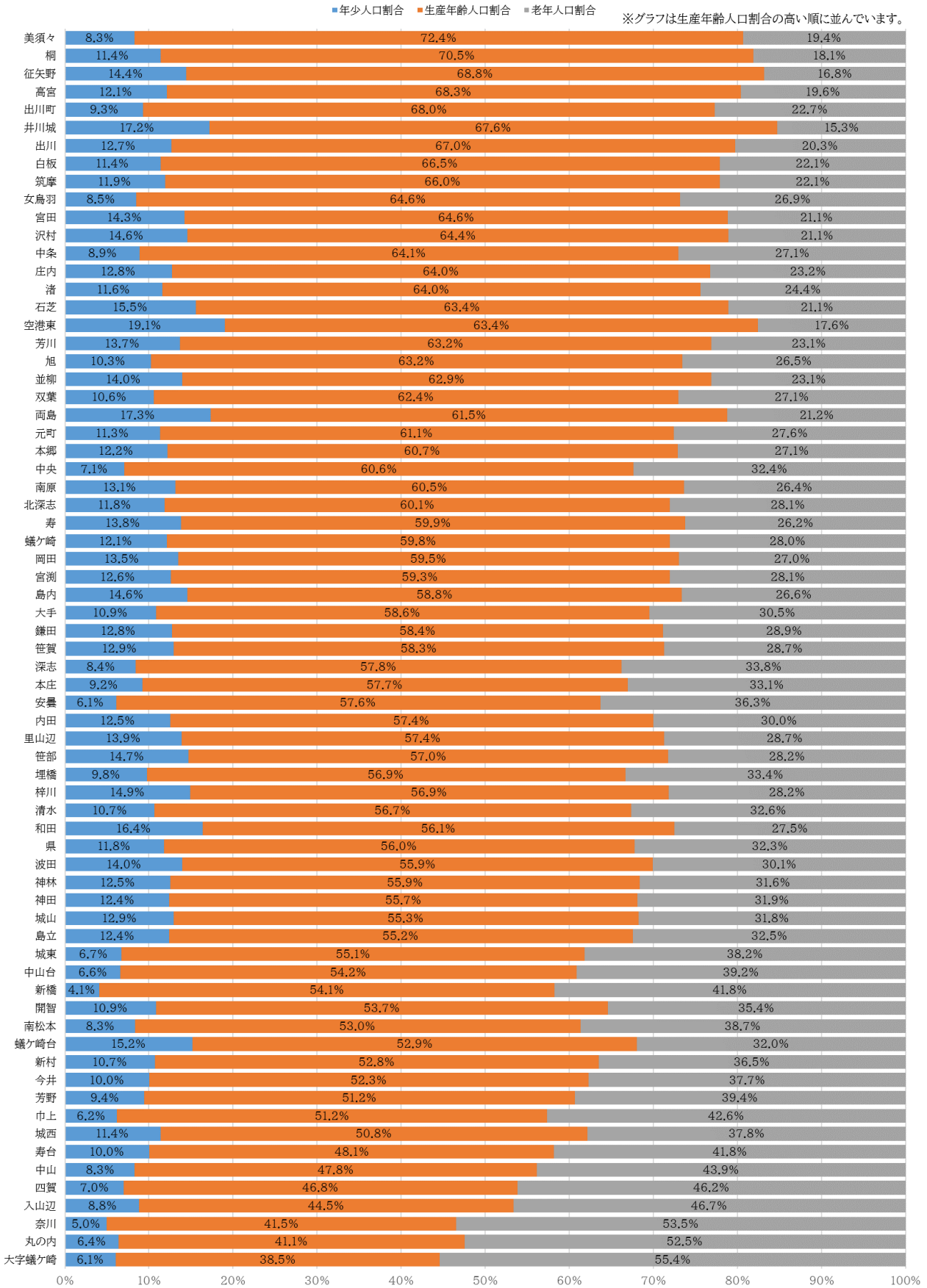
(3) 小地域集計における年齢3区分人口構成の比較

小地域単位で年齢3区分の人口構成を比較したところ、年少人口割合の中央値は11.8%で、15%以上の地域が6地域、10～15%未満の地域が42地域、10%未満の地域が21地域となっています。

また、老年人口割合の高い大字蟻ヶ崎、奈川、丸の内、入山辺の4地域は老年人口割合が生産年齢人口割合を上回る結果となりました。

地域別の年齢別構成を階級ごとに色分けすると、生産年齢人口割合が高い(赤色の)地域が美須々・桐地域と、征矢野・高宮・出川町・井川城・出川地域に集中していることが分かりました。

グラフ-3 令和2年国勢調査 地域別年齢(3区分)別構成比



※年齢不詳者を除く

図-1
令和2年国勢調査
町丁・字別年齢人口構成比
15歳未満人口の場合

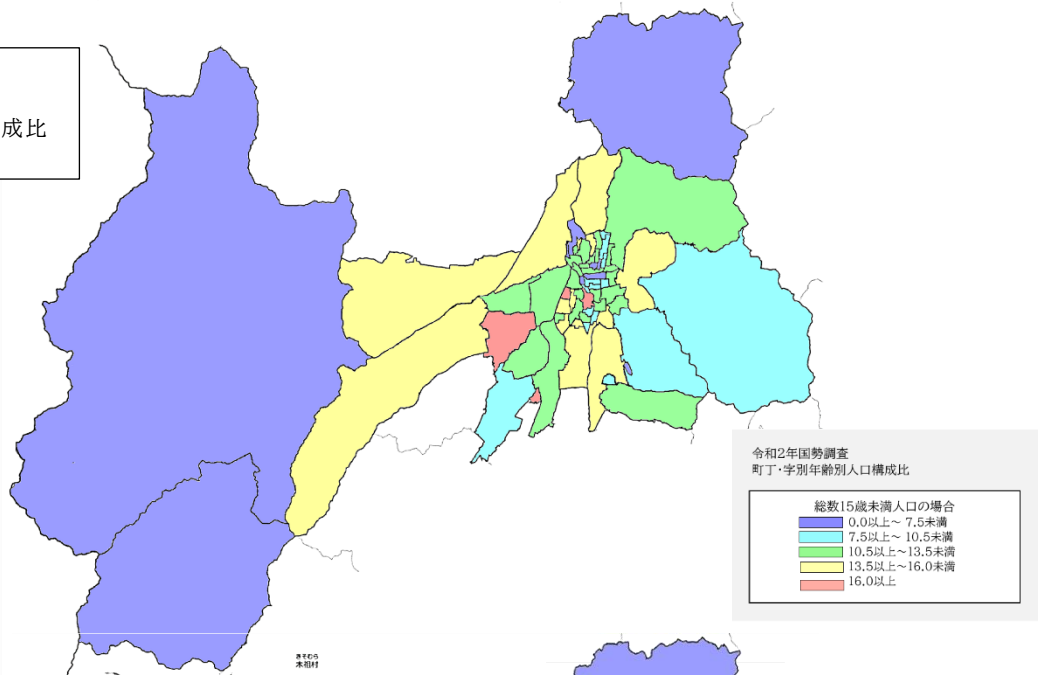


図-2
令和2年国勢調査
町丁・字別年齢人口構成比
15～64歳人口の場合

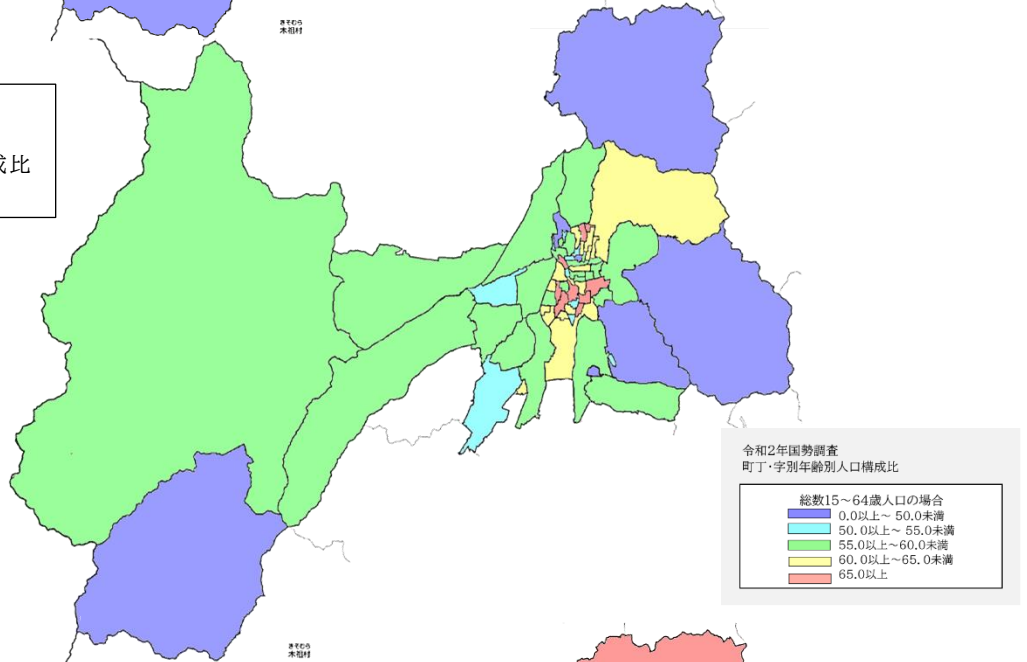
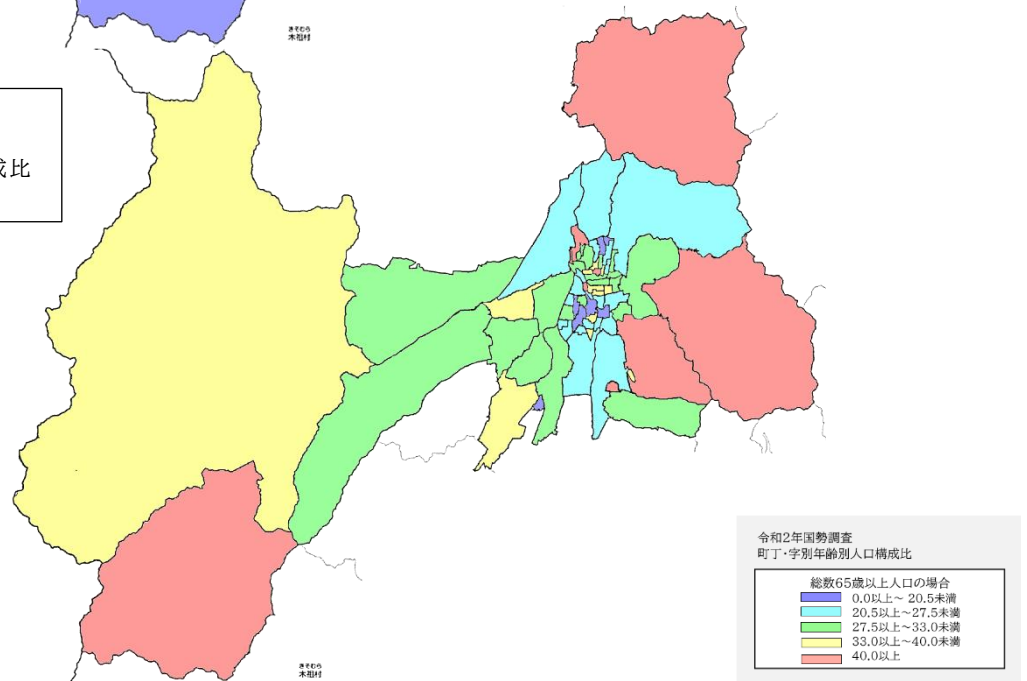


図-3
令和2年国勢調査
町丁・字別年齢人口構成比
65歳以上人口の場合

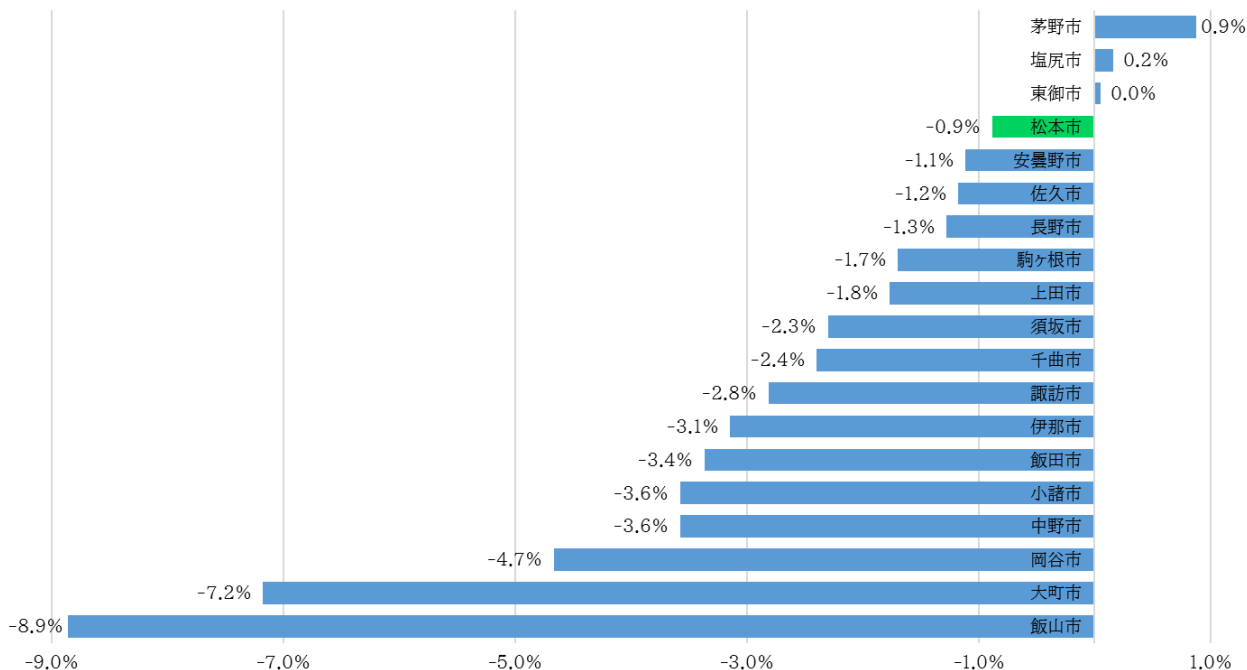


3 県内 19 市との比較

(1) 人口増減率

県内 19 市中、茅野市・塩尻市・東御市の 3 市の人口が増加しました。本市は前回調査に比べ人口増減率は△0.9%の減少となりましたが、19 市のなかでは減少の少ない方から 4 番目の順位となっています。

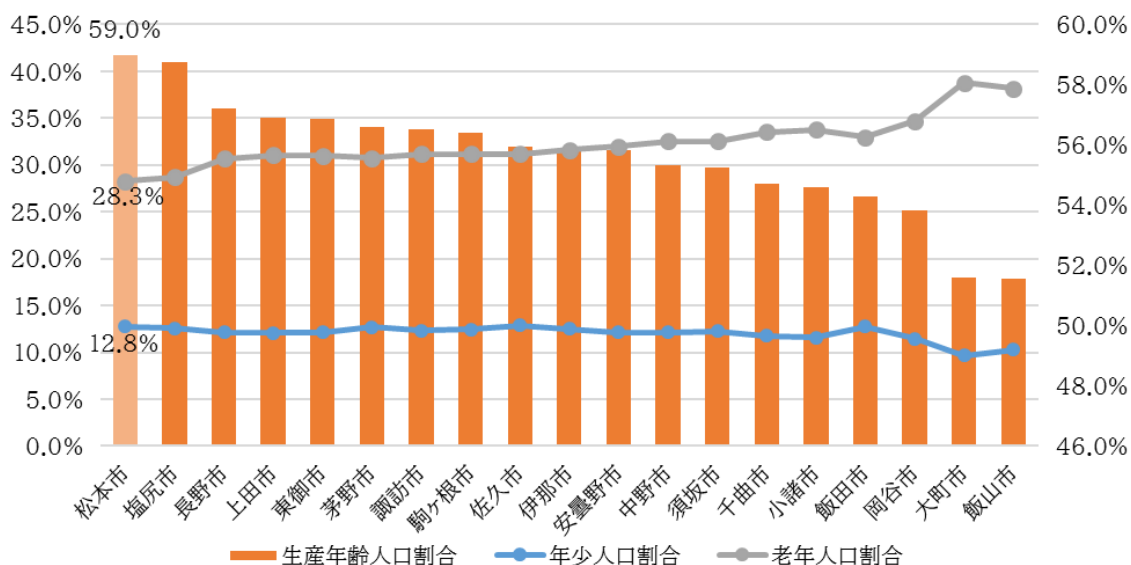
グラフ-4 令和2年国勢調査 19市の人口増減率(対平成27年国勢調査)



(2) 年齢 3 区分人口割合の推移 ～生産年齢人口割合 1 位・高齢人口割合 19 位～

19 市中、本市の年少人口割合(12.8%)は 2 番目に高く、生産年齢人口割合(59.0%)は最も高く、老年人口割合(28.3%)は最も低い順位となりました。

グラフ-5 令和2年国勢調査 県内19市の年少人口・生産年齢人口・老年人口の割合



※年齢不詳者を除く

(3) 年齢3区分人口割合の順位 ～生産年齢人口割合 前回国勢調査から0.2%増加～
平成22年から令和2年の国勢調査において、年少人口割合は低下していますが、19市での順位は上昇しています。

生産年齢人口割合は平成27年(59.8%)と令和2年(59.0%)を比較すると0.8%低下しましたが、19市の中では最も高い割合となりました。

老年人口割合は19市では最も低く、平成22年から令和2年まで比較してもほとんど順位に変動はありません。

表-6 県内19市における年少人口割合の推移

平成22年 19市 年少人口割合			平成27年 19市 年少人口割合			令和2年 19市 年少人口割合		
順位	市	%	順位	市	%	順位	市	%
1	茅野市	14.7%	1	茅野市	13.9%	1	佐久市	12.9%
2	駒ヶ根市	14.7%	2	駒ヶ根市	13.8%	2	松本市	12.8%
3	伊那市	14.4%	3	伊那市	13.6%	3	飯田市	12.7%
4	佐久市	14.3%	4	飯田市	13.5%	4	茅野市	12.7%
5	中野市	14.2%	5	松本市	13.5%	5	塩尻市	12.5%
6	東御市	14.2%	6	東御市	13.3%	6	伊那市	12.5%
7	飯田市	14.1%	7	佐久市	13.3%	7	駒ヶ根市	12.4%
8	松本市	14.1%	8	諏訪市	13.2%	8	諏訪市	12.3%
9	長野市	14.1%	9	長野市	13.2%	9	須坂市	12.2%
10	諏訪市	14.1%	10	中野市	13.2%	10	安曇野市	12.2%
11	塩尻市	14.0%	11	須坂市	13.1%	11	東御市	12.1%
12	安曇野市	13.9%	12	安曇野市	13.0%	12	長野市	12.1%
13	須坂市	13.9%	13	塩尻市	13.0%	13	中野市	12.1%
14	上田市	13.8%	14	上田市	12.9%	14	上田市	12.1%
15	岡谷市	13.8%	15	岡谷市	12.7%	15	千曲市	11.8%
16	千曲市	13.5%	16	小諸市	12.7%	16	小諸市	11.6%
17	小諸市	13.3%	17	千曲市	12.3%	17	岡谷市	11.5%
18	大町市	12.5%	18	飯山市	11.3%	18	飯山市	10.3%
19	飯山市	12.5%	19	大町市	10.9%	19	大町市	9.6%

表-7 県内19市における生産年齢人口割合の推移

平成22年 19市 生産年齢人口割合			平成27年 19市 生産年齢人口割合			令和2年 19市 生産年齢人口割合		
順位	市	%	順位	市	%	順位	市	%
1	塩尻市	62.3%	1	塩尻市	59.9%	1	松本市	59.0%
2	松本市	62.2%	2	松本市	59.8%	2	塩尻市	58.7%
3	茅野市	61.2%	3	長野市	58.3%	3	長野市	57.2%
4	長野市	61.0%	4	茅野市	57.8%	4	上田市	56.9%
5	諏訪市	60.8%	5	東御市	57.7%	5	東御市	56.9%
6	小諸市	60.5%	6	上田市	57.7%	6	茅野市	56.6%
7	東御市	60.4%	7	佐久市	57.7%	7	諏訪市	56.5%
8	中野市	60.1%	8	諏訪市	57.7%	8	駒ヶ根市	56.4%
9	安曇野市	60.1%	9	中野市	57.4%	9	佐久市	55.9%
10	上田市	60.0%	10	安曇野市	57.1%	10	伊那市	55.8%
11	佐久市	59.8%	11	小諸市	56.9%	11	安曇野市	55.8%
12	須坂市	59.7%	12	駒ヶ根市	56.9%	12	中野市	55.3%
13	千曲市	59.1%	13	須坂市	56.6%	13	須坂市	55.2%
14	駒ヶ根市	59.0%	14	千曲市	56.3%	14	千曲市	54.7%
15	伊那市	59.0%	15	伊那市	56.3%	15	小諸市	54.6%
16	岡谷市	57.9%	16	飯田市	55.2%	16	飯田市	54.3%
17	飯田市	57.7%	17	岡谷市	54.8%	17	岡谷市	53.8%
18	大町市	56.8%	18	飯山市	54.0%	18	大町市	51.6%
19	飯山市	56.6%	19	大町市	53.8%	19	飯山市	51.5%

表-8 県内19市における老年人口割合の推移

平成22年 19市 老年人口割合			平成27年 19市 老年人口割合			令和2年 19市 老年人口割合		
順位	市	%	順位	市	%	順位	市	%
1	飯山市	31.0%	1	大町市	35.3%	1	大町市	38.8%
2	大町市	30.7%	2	飯山市	34.7%	2	飯山市	38.2%
3	岡谷市	28.4%	3	岡谷市	32.5%	3	岡谷市	34.7%
4	飯田市	28.2%	4	千曲市	31.4%	4	小諸市	33.8%
5	千曲市	27.4%	5	飯田市	31.3%	5	千曲市	33.5%
6	伊那市	26.6%	6	小諸市	30.4%	6	飯田市	33.0%
7	須坂市	26.4%	7	須坂市	30.3%	7	中野市	32.6%
8	駒ヶ根市	26.3%	8	伊那市	30.1%	8	須坂市	32.5%
9	小諸市	26.2%	9	安曇野市	29.9%	9	安曇野市	32.0%
10	上田市	26.1%	10	中野市	29.5%	10	伊那市	31.6%
11	安曇野市	25.9%	11	上田市	29.3%	11	諏訪市	31.2%
12	佐久市	25.9%	12	駒ヶ根市	29.3%	12	佐久市	31.2%
13	中野市	25.7%	13	諏訪市	29.1%	13	駒ヶ根市	31.2%
14	東御市	25.5%	14	佐久市	29.0%	14	上田市	31.0%
15	諏訪市	25.2%	15	東御市	28.9%	15	東御市	31.0%
16	長野市	24.9%	16	長野市	28.5%	16	茅野市	30.7%
17	茅野市	24.1%	17	茅野市	28.3%	17	長野市	30.7%
18	松本市	23.7%	18	塩尻市	27.1%	18	塩尻市	28.7%
19	塩尻市	23.7%	19	松本市	26.7%	19	松本市	28.3%

※年齢不詳者を除く

4 中核市との比較

(1) 人口増減率

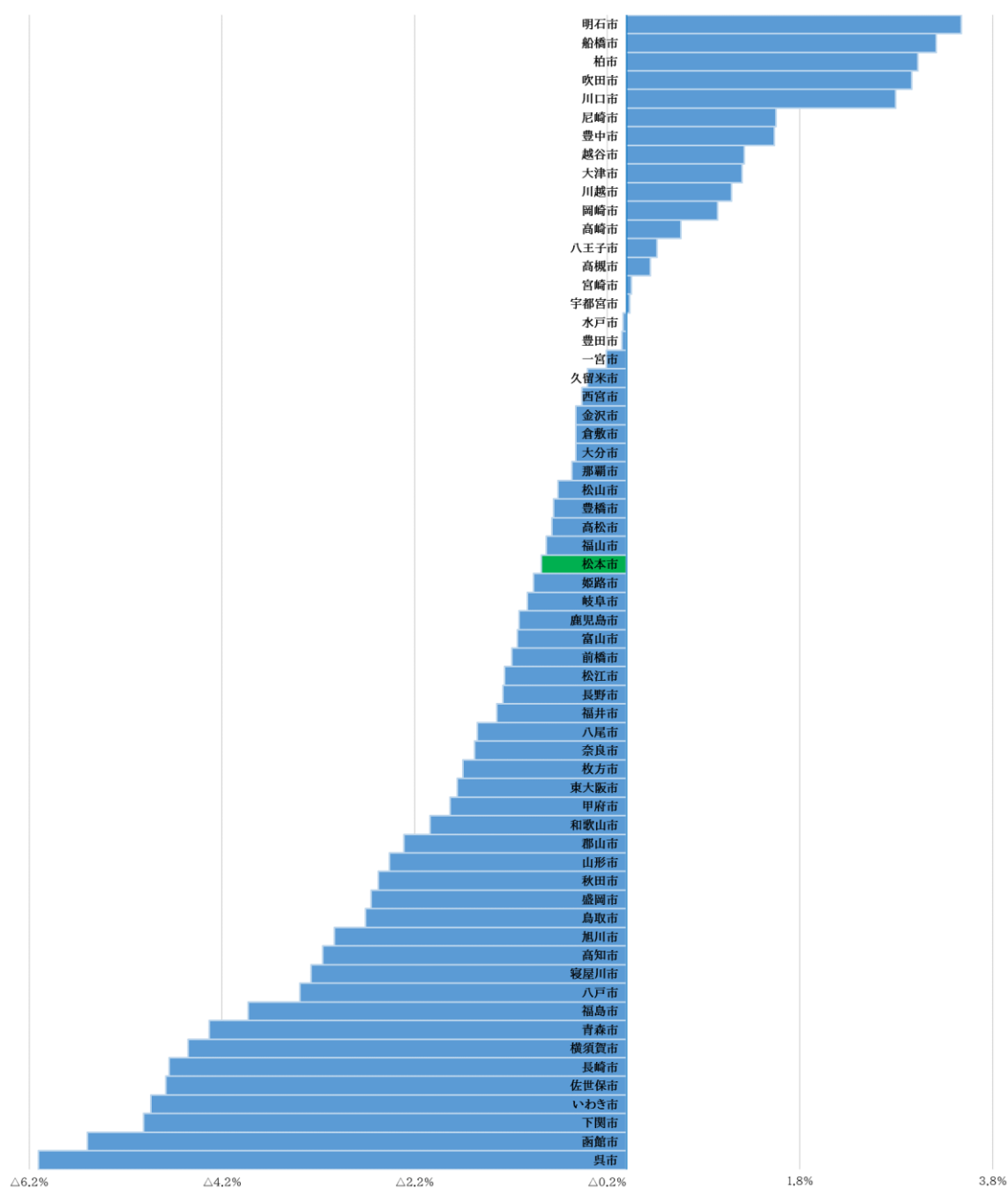
松本市は令和3年4月1日に中核市に移行しました。現在全国では62市が指定されており、ここでは国勢調査の主要結果を他の中核市と比較します。

中核市での人口増減率は、兵庫県明石市が最も高く3.5%増加しており、続けて千葉県船橋市(3.2%増)、千葉県柏市(3.0%増)の順になっています。

平成27年国勢調査と令和2年国勢調査を比較すると、人口が増加した市は17市、減少した市が45市でした。

松本市の人口増減率は中核市全体で高い方から30番目(△0.9%)であり、人口が減少した市の中では14番目となっています。

グラフ-6 令和2年国勢調査 中核市の人口増減率(対平成27年国勢調査)



(2) 人口増減率の前回調査比

県名	市名	増加数(人)	令和2年(人)	平成27年(人)	人口増減率(%)
兵庫県	明石市	10192	303,601	293,409	3.5%
千葉県	船橋市	20017	642,907	622,890	3.2%
千葉県	柏市	12514	426,468	413,954	3.0%
大阪府	吹田市	11099	385,567	374,468	3.0%
埼玉県	川口市	16162	594,274	578,112	2.8%
兵庫県	尼崎市	7030	459,593	452,563	1.6%
大阪府	豊中市	6079	401,558	395,479	1.5%
埼玉県	越谷市	4123	341,621	337,498	1.2%
滋賀県	大津市	4097	345,070	340,973	1.2%
埼玉県	川越市	3826	354,571	350,745	1.1%
愛知県	岡崎市	3603	384,654	381,051	0.9%
群馬県	高崎市	2089	372,973	370,884	0.6%
東京都	八王子市	1842	579,355	577,513	0.3%
大阪府	高槻市	869	352,698	351,829	0.2%
宮崎県	宮崎市	201	401,339	401,138	0.1%
栃木県	宇都宮市	163	518,757	518,594	0.0%
茨城県	水戸市	△ 98	270,685	270,783	△0.0%
愛知県	豊田市	△ 212	422,330	422,542	△0.1%
愛知県	一宮市	△ 795	380,073	380,868	△0.2%
福岡県	久留米市	△ 1236	303,316	304,552	△0.4%
兵庫県	西宮市	△ 2263	485,587	487,850	△0.5%
石川県	金沢市	△ 2445	463,254	465,699	△0.5%
岡山県	倉敷市	△ 2526	474,592	477,118	△0.5%
大分県	大分市	△ 2532	475,614	478,146	△0.5%
沖縄県	那覇市	△ 1810	317,625	319,435	△0.6%
愛媛県	松山市	△ 3673	511,192	514,865	△0.7%
愛知県	豊橋市	△ 2845	371,920	374,765	△0.8%
香川県	高松市	△ 3252	417,496	420,748	△0.8%
広島県	福山市	△ 3881	460,930	464,811	△0.8%
長野県	松本市	△ 2148	241,145	243,293	△0.9%
兵庫県	姫路市	△ 5169	530,495	535,664	△1.0%
岐阜県	岐阜市	△ 4178	402,557	406,735	△1.0%
鹿児島県	鹿児島市	△ 6686	593,128	599,814	△1.1%
富山県	富山市	△ 4748	413,938	418,686	△1.1%
群馬県	前橋市	△ 4005	332,149	336,154	△1.2%
島根県	松江市	△ 2614	203,616	206,230	△1.3%
長野県	長野市	△ 4838	372,760	377,598	△1.3%
福井県	福井市	△ 3576	262,328	265,904	△1.3%
大阪府	八尾市	△ 4158	264,642	268,800	△1.5%
奈良県	奈良市	△ 5680	354,630	360,310	△1.6%
大阪府	枚方市	△ 6863	397,289	404,152	△1.7%
大阪府	東大阪市	△ 8844	493,940	502,784	△1.8%
山梨県	甲府市	△ 3534	189,591	193,125	△1.8%
和歌山県	和歌山市	△ 7425	356,729	364,154	△2.0%
福島県	郡山市	△ 7752	327,692	335,444	△2.3%
山形県	山形市	△ 6242	247,590	253,832	△2.5%
秋田県	秋田市	△ 8142	307,672	315,814	△2.6%
岩手県	盛岡市	△ 7900	289,731	297,631	△2.7%
鳥取県	鳥取市	△ 5252	188,465	193,717	△2.7%
北海道	旭川市	△ 10299	329,306	339,605	△3.0%
高知県	高知市	△ 10645	326,545	337,190	△3.2%
大阪府	寝屋川市	△ 7785	229,733	237,518	△3.3%
青森県	八戸市	△ 7842	223,415	231,257	△3.4%
福島県	福島市	△ 11554	282,693	294,247	△3.9%
青森県	青森市	△ 12456	275,192	287,648	△4.3%
神奈川県	横須賀市	△ 18508	388,078	406,586	△4.6%
長崎県	長崎市	△ 20390	409,118	429,508	△4.7%
長崎県	佐世保市	△ 12216	243,223	255,439	△4.8%
福島県	いわき市	△ 17306	332,931	350,237	△4.9%
山口県	下関市	△ 13466	255,051	268,517	△5.0%
北海道	函館市	△ 14895	251,084	265,979	△5.6%
広島県	呉市	△ 13960	214,592	228,552	△6.1%

(3) 年齢3区分人口割合の順位

中核市における松本市の年齢3区分の順位は、年少人口割合は27位、生産年齢人口割合は25位、老年人口割合は41位となっています。

中核市全体の平均値と比較すると、松本市の年少人口割合は12.8%、生産年齢人口割合は59.0%で、どちらも平均値より高い結果となっています。一方、老年人口割合は28.3%で平均値より低い結果となっています。

表-10 令和2年国勢調査 中核市の年齢3区分人口割合

令和2年 中核市 年少人口割合				令和2年 中核市 生産年齢人口割合				令和2年 中核市 老年人口割合			
順位	都道府県	市	年少人口割合	順位	都道府県	市	生産年齢人口割合	順位	都道府県	市	老年人口割合
1	沖縄県	那覇市	15.0%	1	埼玉県	川口市	63.9%	1	北海道	函館市	36.0%
2	愛知県	岡崎市	14.3%	2	愛知県	豊田市	63.0%	2	山口県	下関市	35.9%
3	大阪府	吹田市	14.0%	3	千葉県	船橋市	63.0%	3	広島県	呉市	35.5%
4	宮崎県	宮崎市	13.8%	4	大阪府	吹田市	62.2%	4	北海道	旭川市	34.6%
5	兵庫県	明石市	13.8%	5	愛知県	岡崎市	62.0%	5	長崎県	長崎市	32.9%
6	兵庫県	西宮市	13.7%	6	兵庫県	西宮市	61.9%	6	青森県	青森市	32.2%
7	大阪府	豊中市	13.7%	7	埼玉県	越谷市	61.7%	7	神奈川県	横須賀市	32.2%
8	鹿児島県	鹿児島市	13.6%	8	沖縄県	那覇市	61.5%	8	長崎県	佐世保市	32.1%
9	福岡県	久留米市	13.6%	9	東京都	八王子市	61.4%	9	秋田県	秋田市	31.8%
10	大分県	大分市	13.6%	10	栃木県	宇都宮市	61.2%	10	奈良県	奈良市	31.7%
11	愛知県	豊田市	13.6%	11	千葉県	柏市	60.6%	11	福島県	いわき市	31.5%
12	滋賀県	大津市	13.5%	12	福島県	郡山市	60.6%	12	青森県	八戸市	31.3%
13	岡山県	倉敷市	13.5%	13	愛知県	豊橋市	60.5%	13	和歌山県	和歌山市	31.1%
14	広島県	福山市	13.4%	14	石川県	金沢市	60.5%	14	群馬県	前橋市	30.8%
15	兵庫県	姫路市	13.3%	15	茨城県	水戸市	60.2%	15	長野県	長野市	30.7%
16	愛知県	豊橋市	13.3%	16	大阪府	東大阪市	60.1%	16	福島県	福島市	30.6%
17	長崎県	佐世保市	13.1%	17	大阪府	豊中市	60.0%	17	大阪府	寝屋川市	30.5%
18	愛知県	一宮市	13.1%	18	岩手県	盛岡市	59.6%	18	高知県	高知市	30.3%
19	島根県	松江市	13.0%	19	滋賀県	大津市	59.5%	19	富山県	富山市	30.2%
20	栃木県	宇都宮市	13.0%	20	兵庫県	明石市	59.5%	20	大阪府	枚方市	30.0%
21	香川県	高松市	13.0%	21	兵庫県	尼崎市	59.4%	21	島根県	松江市	29.9%
22	千葉県	柏市	12.8%	22	兵庫県	姫路市	59.4%	22	岐阜県	岐阜市	29.9%
23	福井県	福井市	12.8%	23	愛知県	一宮市	59.4%	23	山形県	山形市	29.9%
24	鳥取県	鳥取市	12.8%	24	埼玉県	川越市	59.1%	24	鳥取県	鳥取市	29.7%
25	茨城県	水戸市	12.8%	25	長野県	松本市	59.0%	25	山梨県	甲府市	29.6%
26	千葉県	船橋市	12.8%	26	大阪府	八尾市	58.9%	26	大阪府	高槻市	29.6%
27	長野県	松本市	12.8%	27	山梨県	甲府市	58.8%	27	福井県	福井市	29.4%
28	埼玉県	越谷市	12.8%	28	群馬県	高崎市	58.8%	28	広島県	福山市	29.2%
29	愛媛県	松山市	12.7%	29	愛媛県	松山市	58.7%	29	埼玉県	川越市	29.0%
30	群馬県	高崎市	12.6%	30	大分県	大分市	58.5%	30	兵庫県	尼崎市	29.0%
31	石川県	金沢市	12.5%	31	香川県	高松市	58.3%	31	岡山県	倉敷市	28.9%
32	大阪府	高槻市	12.4%	32	山形県	山形市	58.1%	32	大阪府	八尾市	28.8%
33	埼玉県	川口市	12.4%	33	福島県	福島市	58.1%	33	大阪府	東大阪市	28.8%
34	大阪府	枚方市	12.3%	34	岐阜県	岐阜市	58.0%	34	香川県	高松市	28.8%
35	福島県	郡山市	12.3%	35	大阪府	高槻市	58.0%	35	福岡県	久留米市	28.7%
36	大阪府	八尾市	12.3%	36	富山県	富山市	58.0%	36	群馬県	高崎市	28.7%
37	長野県	長野市	12.1%	37	大阪府	寝屋川市	57.9%	37	愛媛県	松山市	28.6%
38	岐阜県	岐阜市	12.1%	38	鹿児島県	鹿児島市	57.8%	38	鹿児島県	鹿児島市	28.6%
39	高知県	高知市	12.0%	39	大阪府	枚方市	57.7%	39	宮崎県	宮崎市	28.4%
40	山形県	山形市	12.0%	40	宮崎県	宮崎市	57.7%	40	岩手県	盛岡市	28.4%
41	和歌山県	和歌山市	12.0%	41	福井県	福井市	57.7%	41	長野県	松本市	28.3%
42	岩手県	盛岡市	11.9%	42	高知県	高知市	57.7%	42	大分県	大分市	27.9%
43	埼玉県	川越市	11.9%	43	福岡県	久留米市	57.7%	43	愛知県	一宮市	27.5%
44	富山県	富山市	11.8%	44	岡山県	倉敷市	57.6%	44	東京都	八王子市	27.3%
45	群馬県	前橋市	11.8%	45	広島県	福山市	57.5%	45	兵庫県	姫路市	27.3%
46	福島県	いわき市	11.7%	46	鳥取県	鳥取市	57.4%	46	福島県	郡山市	27.1%
47	山梨県	甲府市	11.6%	47	群馬県	前橋市	57.4%	47	石川県	金沢市	27.0%
48	長崎県	長崎市	11.6%	48	秋田県	秋田市	57.3%	48	茨城県	水戸市	27.0%
49	大阪府	寝屋川市	11.6%	49	神奈川県	横須賀市	57.3%	49	滋賀県	大津市	26.9%
50	兵庫県	尼崎市	11.6%	50	長野県	長野市	57.2%	50	兵庫県	明石市	26.7%
51	青森県	八戸市	11.6%	51	青森県	八戸市	57.1%	51	千葉県	柏市	26.5%
52	奈良県	奈良市	11.4%	52	青森県	青森市	57.1%	52	大阪府	豊中市	26.3%
53	福島県	福島市	11.3%	53	島根県	松江市	57.1%	53	愛知県	豊橋市	26.2%
54	東京都	八王子市	11.2%	54	和歌山県	和歌山市	57.0%	54	栃木県	宇都宮市	25.9%
55	山口県	下関市	11.2%	55	奈良県	奈良市	56.9%	55	埼玉県	越谷市	25.5%
56	大阪府	東大阪市	11.1%	56	福島県	いわき市	56.8%	56	兵庫県	西宮市	24.4%
57	秋田県	秋田市	10.9%	57	長崎県	長崎市	55.5%	57	千葉県	船橋市	24.3%
58	広島県	呉市	10.8%	58	長崎県	佐世保市	54.8%	58	大阪府	吹田市	23.8%
59	北海道	旭川市	10.7%	59	北海道	旭川市	54.8%	59	愛知県	岡崎市	23.7%
60	青森県	青森市	10.7%	60	北海道	函館市	54.5%	60	埼玉県	川口市	23.6%
61	神奈川県	横須賀市	10.5%	61	広島県	呉市	53.6%	61	沖縄県	那覇市	23.5%
62	北海道	函館市	9.5%	62	山口県	下関市	52.9%	62	愛知県	豊田市	23.4%
		平均値	12.4%			平均値	58.6%			平均値	28.9%

※年齢不詳者を除く

5 世帯構成の比較

世帯の家族類型をみると、単独世帯と核家族の世帯数は平成7年から令和2年まで増加しており、特に単独世帯は大きく増加しています。

反対に核家族以外の世帯は平成17年以降減少しています。

世帯の家族類型を世帯人員数でみると、世帯数と同様に単独世帯と核家族の世帯は増加しており、核家族以外の世帯の世帯人員数は平成17年以降減少しています。

世帯人員別の世帯の状況では世帯人員1人の世帯が最も多く、増加率も高くなっています。また、3人以上の世帯はいずれも減少しています。

表-11 家族類型別世帯数及び世帯割合の推移

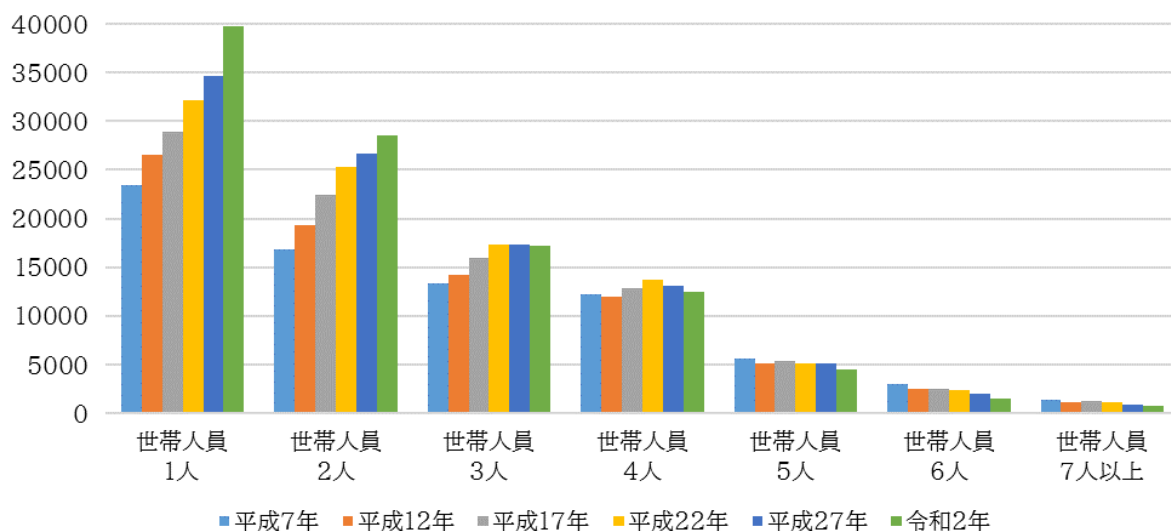
年	世帯							
	核家族世帯		核家族以外の世帯		非親族を含む世帯		単独世帯	
	(世帯数)	(%)	(世帯数)	(%)	(世帯数)	(%)	(世帯数)	(%)
平成7年	39,824	52.5%	12,324	16.3%	178	0.2%	23,472	31.0%
平成12年	42,661	52.7%	11,471	14.2%	313	0.4%	26,531	32.8%
平成17年	47,266	53.1%	12,472	14.0%	480	0.5%	28,874	32.4%
平成22年	51,828	53.4%	12,391	12.8%	787	0.8%	32,124	33.1%
平成27年	52,885	53.1%	11,128	11.2%	809	0.8%	34,719	34.9%
令和2年	54,831	52.4%	9,169	8.8%	963	0.9%	39,707	37.9%

表-12 家族類型別世帯人員数及び世帯人員割合の推移

年	世帯人員							
	核家族世帯人員		核家族以外の世帯人員		非親族を含む世帯人員		単独世帯人員	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
平成7年	118,349	58.6%	59,623	29.5%	365	0.2%	23,472	11.6%
平成12年	124,104	60.5%	54,010	26.3%	633	0.3%	26,531	12.9%
平成17年	135,514	60.8%	57,664	25.9%	965	0.4%	28,874	12.9%
平成22年	147,426	62.0%	56,108	23.6%	1,958	0.8%	32,124	13.5%
平成27年	149,326	63.3%	49,775	21.1%	2,012	0.9%	34,719	14.7%
令和2年	153,265	65.2%	39,666	16.9%	2,351	1.0%	39,707	16.9%

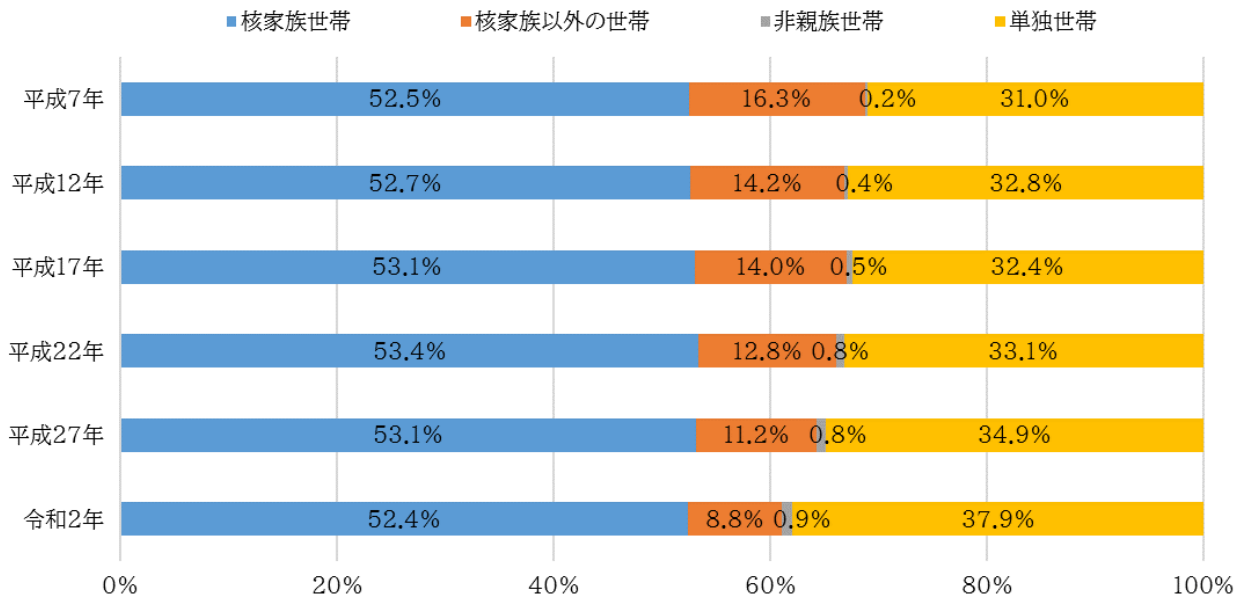
※合併前市域及び世帯不詳者を除く

グラフ-7 世帯人員別一般世帯数の推移(平成7年～令和2年)



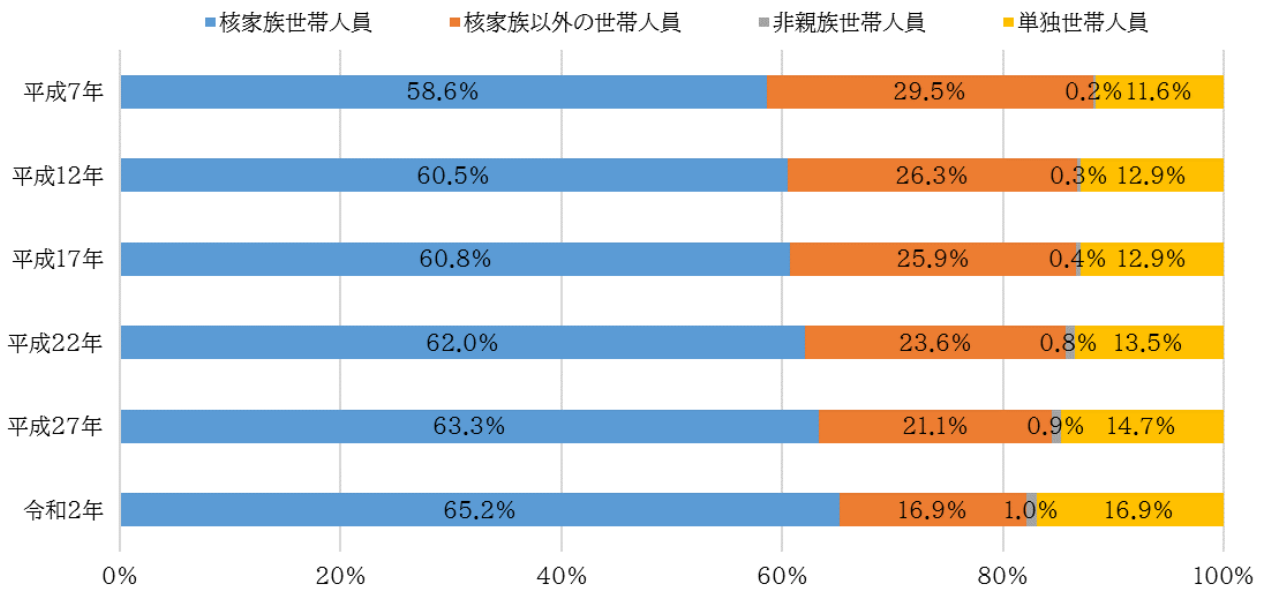
※合併前市域及び世帯不詳者を除く

グラフ-8 世帯の家族類型の変化



※合併前市域及び世帯不詳者を除く

グラフ-9 世帯人員の家族類型の変化



※合併前市域及び世帯不詳者を除く

6 松本市の流入・流出人口と昼夜間人口比率

(1) 流入人口と流出人口

松本市への流入人口は 37,161 人となり、松本市からの流出人口は 23,191 人でした。

平成 22 年から令和 2 年の国勢調査をみると、松本市に通勤・通学している人が多い市町村は、安曇野市、塩尻市、山形村、長野市、岡谷市の順となっています。

反対に松本市から通勤・通学している人が多い市町村は、塩尻市、安曇野市、山形村、長野市、諏訪市の順となっています。

表-13 令和2年国勢調査 松本市の流入・流出人口

地域名	流入人口(人)			流出人口(人)		
	総数	県内他市町村に常住	他県に常住	総数	県内他市町村で従業・通学	他県で従業・通学
松本市	37,161	35,893	1,268	23,191	21,795	1,396

表-14 流入人口(松本市に通勤・通学している人)の常住地の推移

平成22年国勢調査				平成27年国勢調査				令和2年国勢調査			
順位	市区町村名	流入人口(人)	構成比	市区町村名	流入人口(人)	構成比	市区町村名	流入人口(人)	構成比		
1	長野県 安曇野市	14,246	36.9%	長野県 安曇野市	13,798	35.6%	長野県 安曇野市	13,443	36.2%		
2	長野県 塩尻市	10,072	26.1%	長野県 塩尻市	9,928	25.6%	長野県 塩尻市	9,797	26.4%		
3	長野県 山形村	2,059	5.3%	長野県 山形村	2,102	5.4%	長野県 山形村	2,026	5.5%		
4	長野県 長野市	1,235	3.2%	長野県 長野市	1,288	3.3%	長野県 長野市	1,317	3.5%		
5	長野県 岡谷市	1,000	2.6%	長野県 岡谷市	1,037	2.7%	長野県 岡谷市	1,022	2.8%		
6	長野県 朝日村	979	2.5%	長野県 朝日村	997	2.6%	長野県 朝日村	801	2.2%		
7	長野県 大町市	978	2.5%	長野県 朝日村	872	2.3%	長野県 大町市	782	2.1%		
8	長野県 池田町	835	2.2%	長野県 池田町	774	2.0%	長野県 松川村	707	1.9%		
9	長野県 松川村	776	2.0%	長野県 松川村	737	1.9%	長野県 池田町	695	1.9%		
10	長野県 諏訪市	668	1.7%	長野県 諏訪市	683	1.8%	長野県 諏訪市	681	1.8%		
11	長野県 筑北村	602	1.6%	長野県 茅野市	565	1.5%	長野県 茅野市	569	1.5%		
12	長野県 茅野市	440	1.1%	長野県 筑北村	500	1.3%	長野県 筑北村	383	1.0%		
13	長野県 辰野町	429	1.1%	長野県 辰野町	409	1.1%	長野県 辰野町	374	1.0%		
14	長野県 下諏訪町	343	0.9%	長野県 下諏訪町	340	0.9%	長野県 下諏訪町	360	1.0%		
15	長野県 伊那市	304	0.8%	長野県 伊那市	324	0.8%	長野県 伊那市	344	0.9%		
16	長野県 上田市	292	0.8%	長野県 上田市	316	0.8%	長野県 上田市	331	0.9%		
17	長野県 箕輪町	284	0.7%	長野県 麻績村	212	0.5%	長野県 箕輪町	220	0.6%		
18	長野県 麻績村	239	0.6%	長野県 箕輪町	206	0.5%	長野県 千曲市	202	0.5%		
19	長野県 生坂村	187	0.5%	長野県 千曲市	177	0.5%	長野県 麻績村	183	0.5%		
20	長野県 千曲市	173	0.4%	長野県 生坂村	162	0.4%	長野県 生坂村	137	0.4%		
21	長野県 木曾町	150	0.4%	長野県 木曾町	126	0.3%	長野県 飯田市	132	0.4%		
22	長野県 木祖村	130	0.3%	長野県 駒ヶ根市	113	0.3%	長野県 木曾町	115	0.3%		
23	長野県 白馬村	126	0.3%	長野県 木祖村	105	0.3%	長野県 富士見町	114	0.3%		
24	長野県 飯田市	115	0.3%	長野県 富士見町	103	0.3%	長野県 南箕輪村	109	0.3%		
25	長野県 富士見町	110	0.3%	長野県 飯田市	100	0.3%	長野県 須坂市	105	0.3%		
26	その他	1,879	4.9%	その他	2,762	7.1%	その他	2,212	6.0%		

表-15 流出人口(松本市に常住している人)の通勤地・通学地の推移

平成22年国勢調査				平成27年国勢調査				令和2年国勢調査			
順位	市区町村名	流出人口(人)	構成比	市区町村名	流出人口(人)	構成比	市区町村名	流出人口(人)	構成比		
1	長野県 塩尻市	7,907	37.4%	長野県 塩尻市	7,761	34.0%	長野県 塩尻市	8,103	34.9%		
2	長野県 安曇野市	6,559	31.0%	長野県 安曇野市	7,150	31.4%	長野県 安曇野市	7,049	30.4%		
3	長野県 山形村	1,064	5.0%	長野県 長野市	1,076	4.7%	長野県 山形村	1,099	4.7%		
4	長野県 長野市	981	4.6%	長野県 山形村	1,060	4.6%	長野県 長野市	1,068	4.6%		
5	長野県 諏訪市	695	3.3%	長野県 諏訪市	685	3.0%	長野県 諏訪市	699	3.0%		
6	長野県 岡谷市	539	2.5%	長野県 岡谷市	537	2.4%	長野県 岡谷市	574	2.5%		
7	長野県 朝日村	356	1.7%	長野県 朝日村	370	1.6%	長野県 朝日村	374	1.6%		
8	長野県 大町市	323	1.5%	長野県 大町市	333	1.5%	長野県 大町市	345	1.5%		
9	長野県 上田市	299	1.4%	長野県 上田市	305	1.3%	長野県 上田市	314	1.4%		
10	長野県 茅野市	252	1.2%	長野県 茅野市	243	1.1%	長野県 茅野市	243	1.0%		
11	長野県 伊那市	189	0.9%	長野県 池田町	217	1.0%	長野県 伊那市	233	1.0%		
12	長野県 池田町	186	0.9%	長野県 下諏訪町	196	0.9%	長野県 池田町	220	0.9%		
13	長野県 富士見町	179	0.8%	長野県 富士見町	196	0.9%	長野県 富士見町	188	0.8%		
14	長野県 下諏訪町	151	0.7%	長野県 伊那市	190	0.8%	長野県 下諏訪町	178	0.8%		
15	長野県 木曾町	112	0.5%	長野県 辰野町	107	0.5%	長野県 辰野町	141	0.6%		
16	長野県 松川村	102	0.5%	長野県 木曾町	100	0.4%	長野県 木曾町	108	0.5%		
17	長野県 辰野町	101	0.5%	長野県 松川村	91	0.4%	長野県 松川村	95	0.4%		
18	長野県 箕輪町	94	0.4%	長野県 飯田市	87	0.4%	長野県 飯田市	87	0.4%		
19	長野県 飯田市	67	0.3%	長野県 箕輪町	76	0.3%	長野県 箕輪町	84	0.4%		
20	長野県 筑北村	63	0.3%	長野県 麻績村	69	0.3%	愛知県 名古屋	79	0.3%		
21	長野県 麻績村	53	0.3%	山梨県 甲府市	66	0.3%	長野県 筑北村	75	0.3%		
22	長野県 南箕輪村	51	0.2%	長野県 佐久市	59	0.3%	東京都 千代田区	62	0.3%		
23	長野県 佐久市	44	0.2%	長野県 筑北村	55	0.2%	山梨県 甲府市	57	0.2%		
24	長野県 駒ヶ根市	43	0.2%	長野県 南箕輪村	51	0.2%	長野県 佐久市	53	0.2%		
25	山梨県 甲府市	41	0.2%	長野県 駒ヶ根市	49	0.2%	東京都 新宿区	52	0.2%		
26	その他	695	3.3%	その他	1,667	7.3%	その他	1,611	6.9%		

※従業地・通学地「不詳」及び特別区部を除く

(2) 県内 19 市との昼夜間人口比率の比較

松本市の夜間人口(常住地による人口)は 241,145 人となり、昼間人口(従業地・通学地による人口)は 255,115 人となっています。

昼夜間人口比率は 105.8%であり、昼夜間人口比率が 100 を上回り夜間よりも昼間の人口が多いことから、松本市は中心都市型の市と言えます。

県内 19 市では諏訪市(106.6%)に次いで 2 番目に高い比率となっています。

また、平成 22 年から令和 2 年の昼夜間人口比率の推移をみると減少傾向となっていますが、県内 19 市での順位は変わりません。

表-16 令和2年国勢調査 19市の昼夜間人口・流出入人口の比較(総数)

地域名	夜間人口(人)	昼間人口(人)	昼夜間人口比率(%)	昼間人口と夜間人口の差(人)	流入人口(人)			流出人口(人)		
					総数	県内他市町村に常住	他県に常住	総数	県内他市町村で従業・通学	他県で従業・通学
長野県	2,048,011	2,042,696	99.7	△ 5315	9,310	313,434	9,310	14,625	313,434	14,625
長野市	372,760	383,757	103.0	10997	36,169	34,461	1,708	25,172	22,983	2,189
松本市	241,145	255,115	105.8	13970	37,161	35,893	1,268	23,191	21,795	1,396
上田市	154,055	156,464	101.6	2409	17,145	16,575	570	14,736	13,751	985
岡谷市	47,790	47,033	98.4	△ 757	9,084	9,000	84	9,841	9,572	269
飯田市	98,164	102,005	103.9	3841	11,455	11,099	356	7,614	7,147	467
諏訪市	48,729	51,928	106.6	3199	13,064	12,802	262	9,865	9,458	407
須坂市	49,559	48,427	97.7	△ 1132	10,352	10,292	60	11,484	11,225	259
小諸市	40,991	39,887	97.3	△ 1104	8,305	8,192	113	9,409	9,059	350
伊那市	66,125	66,677	100.8	552	11,330	11,192	138	10,778	10,481	297
駒ヶ根市	32,202	33,443	103.9	1241	6,914	6,822	92	5,673	5,522	151
中野市	42,338	42,301	99.9	△ 37	8,118	7,988	130	8,155	7,966	189
大町市	26,029	26,714	102.6	685	4,228	4,138	90	3,543	3,413	130
飯山市	19,539	19,539	100.0	0	3,231	3,126	105	3,231	3,123	108
茅野市	56,400	55,259	98.0	△ 1141	9,065	8,546	519	10,206	9,635	571
塩尻市	67,241	66,280	98.6	△ 961	14,329	14,152	177	15,290	14,943	347
佐久市	98,199	97,468	99.3	△ 731	12,201	11,790	411	12,932	11,966	966
千曲市	58,852	54,812	93.1	△ 4040	9,270	9,194	76	13,310	13,011	299
東御市	30,122	28,906	96.0	△ 1216	6,782	6,708	74	7,998	7,793	205
安曇野市	94,222	87,061	92.4	△ 7161	12,710	12,548	162	19,871	19,370	501

表-17 【19市】平成22年～令和2年 昼夜間人口比率(%)の状況

平成22年		平成27年		令和2年	
長野県 諏訪市	107.8	長野県 諏訪市	107.2	長野県 諏訪市	106.6
長野県 松本市	107.2	長野県 松本市	106.6	長野県 松本市	105.8
長野県 飯田市	104.7	長野県 飯田市	104.5	長野県 飯田市	103.9
長野県 駒ヶ根市	104.7	長野県 駒ヶ根市	104	長野県 駒ヶ根市	103.9
長野県 長野市	104.2	長野県 長野市	103.6	長野県 長野市	103.0
長野県 上田市	102.5	長野県 上田市	102.1	長野県 大町市	102.6
長野県 伊那市	100.5	長野県 飯山市	100.4	長野県 上田市	101.6
長野県 飯山市	100	長野県 伊那市	100.1	長野県 伊那市	100.8
長野県 佐久市	100	長野県 大町市	100	長野県 飯山市	100.0
長野県 大町市	99.9	長野県 佐久市	99.4	長野県 中野市	99.9
長野県 岡谷市	99.3	長野県 岡谷市	98.6	長野県 佐久市	99.3
長野県 塩尻市	99.1	長野県 中野市	98.5	長野県 塩尻市	98.6
長野県 中野市	98.9	長野県 塩尻市	98.5	長野県 岡谷市	98.4
長野県 茅野市	98.1	長野県 須坂市	97.4	長野県 茅野市	98.0
長野県 須坂市	97.7	長野県 茅野市	97.4	長野県 須坂市	97.7
長野県 小諸市	97.5	長野県 東御市	96.2	長野県 小諸市	97.3
長野県 東御市	95.1	長野県 小諸市	96	長野県 東御市	96.0
長野県 安曇野市	91.9	長野県 千曲市	92.6	長野県 千曲市	93.1
長野県 千曲市	91.4	長野県 安曇野市	92.6	長野県 安曇野市	92.4

(3) 中核市との昼夜間人口比率の比較

昼夜間人口比率を中核市で比較すると比率の高い市から、山梨県甲府市(113.1%)、愛知県豊田市(111.1%)、沖縄県那覇市(109.3%)と続き、松本市は8番目に高い順位であり、平成22年～令和2年の間で順位の変動はありません。

表-18 令和2年国勢調査 中核市の昼夜間人口・流入人口の比較(総数)

都道府県	地域名	夜間人口(人)	昼間人口(人)	昼夜間人口比率(%)	昼間人口と夜間人口の差	流入人口(人)			流出人口(人)		
						総数	県内他市町村に常住	他県に常住	総数	県内他市町村で従業・通学	他県で従業・通学
山梨県	甲府市	189,591	214,429	113.1	24838	51,875	49,679	2,196	27,037	25,155	1,882
愛知県	豊田市	422,330	469,093	111.1	46763	93,546	89,246	4,300	46,783	45,300	1,483
沖縄県	那覇市	317,625	347,019	109.3	29394	64,352	63,928	424	34,958	34,544	414
茨城県	水戸市	270,685	295,673	109.2	24988	63,446	60,603	2,843	38,458	35,546	2,912
福井県	福井市	262,328	286,221	109.1	23893	47,040	44,792	2,248	23,147	21,382	1,765
石川県	金沢市	463,254	497,783	107.5	34529	72,597	65,027	7,570	38,068	33,825	4,243
山形県	山形市	247,590	263,518	106.4	15928	37,424	34,878	2,546	21,496	18,662	2,834
長野県	松本市	241,145	255,115	105.8	13970	37,161	35,893	1,268	23,191	21,795	1,396
富山県	富山市	413,938	436,841	105.5	22903	48,249	45,126	3,123	25,346	22,508	2,838
岩手県	盛岡市	289,731	302,356	104.4	12625	39,371	37,282	2,089	26,746	25,077	1,669
青森県	八戸市	223,415	233,149	104.4	9734	20,009	17,162	2,847	10,275	8,245	2,030
群馬県	前橋市	332,149	345,559	104.0	13410	64,951	60,561	4,390	51,541	46,194	5,347
福島県	郡山市	327,692	339,929	103.7	12237	35,223	32,514	2,709	22,986	20,912	2,074
秋田県	秋田市	307,672	319,150	103.7	11478	20,176	19,046	1,130	8,698	7,626	1,072
大阪府	東大阪市	493,940	512,261	103.7	18321	106,690	78,441	28,249	88,369	78,441	9,928
和歌山県	和歌山市	356,729	369,960	103.7	13231	37,905	27,881	10,024	24,674	12,738	11,936
栃木県	宇都宮市	518,757	535,910	103.3	17153	73,438	65,279	8,159	56,285	47,724	8,561
島根県	松江市	203,616	209,721	103.0	6105	17,451	13,274	4,177	11,346	7,956	3,390
鳥取県	鳥取市	188,465	194,088	103.0	5623	11,984	10,661	1,323	6,361	5,384	977
長野県	長野市	372,760	383,757	103.0	10997	36,169	34,461	1,708	25,172	22,983	2,189
香川県	高松市	417,496	429,546	102.9	12050	37,461	33,663	3,798	25,411	22,149	3,262
福島県	福島市	282,693	290,714	102.8	8021	26,549	23,311	3,238	18,528	15,511	3,017
北海道	函館市	251,084	257,568	102.6	6484	16,273	15,937	336	9,789	9,233	556
長崎県	長崎市	409,118	419,495	102.5	10377	31,808	30,504	1,304	21,431	19,664	1,767
岐阜県	岐阜市	402,557	411,497	102.2	8940	77,781	63,322	14,459	68,841	45,159	23,682
高知県	高知市	326,545	332,614	101.9	6069	27,095	26,048	1,047	21,026	19,887	1,139
群馬県	高崎市	372,973	378,922	101.6	5949	65,713	56,959	8,754	59,764	49,455	10,309
長崎県	佐世保市	243,223	246,816	101.5	3593	16,045	13,226	2,819	12,452	9,506	2,946
青森県	青森市	275,192	278,910	101.4	3718	12,589	11,911	678	8,871	7,875	996
宮崎県	宮崎市	401,339	406,619	101.3	5280	19,323	18,288	1,035	14,043	12,945	1,098
大分県	大分市	475,614	481,509	101.2	5895	26,742	24,954	1,788	20,847	18,897	1,950
愛媛県	松山市	511,192	517,165	101.2	5973	29,838	28,004	1,834	23,865	22,240	1,625
鹿児島県	鹿児島市	593,128	599,331	101.0	6203	27,010	25,388	1,622	20,807	19,353	1,454
北海道	旭川市	329,306	331,123	100.6	1817	12,052	11,956	96	10,235	10,029	206
兵庫県	姫路市	530,495	531,747	100.2	1252	60,160	57,247	2,913	58,908	52,299	6,609
広島県	福山市	460,930	459,916	99.8	△ 1014	28,955	16,489	12,466	29,969	18,235	11,734
東京都	八王子市	579,355	574,070	99.1	△ 5285	113,717	70,001	43,716	119,002	97,787	21,215
福岡県	久留米市	303,316	300,236	99.0	△ 3080	42,907	33,312	9,595	45,987	33,887	12,100
岡山県	倉敷市	474,592	469,637	99.0	△ 4955	43,483	39,951	3,532	48,438	44,521	3,917
広島県	呉市	214,592	212,083	98.8	△ 2509	16,573	15,950	623	19,082	18,468	614
山口県	下関市	255,051	251,527	98.6	△ 3524	9,526	4,499	5,027	13,050	5,588	7,462
福島県	いわき市	332,931	327,435	98.3	△ 5496	7,284	3,033	4,251	12,780	8,723	4,057
愛知県	豊橋市	371,920	361,317	97.1	△ 10603	36,683	29,452	7,231	47,286	37,223	10,063
埼玉県	川越市	354,571	343,052	96.8	△ 11519	72,913	63,911	9,002	84,432	51,734	32,698
兵庫県	尼崎市	459,593	443,929	96.6	△ 15664	81,105	50,608	30,497	96,769	35,480	61,289
大阪府	吹田市	385,567	371,024	96.2	△ 14543	96,078	71,340	24,738	110,621	96,092	14,529
愛知県	岡崎市	384,654	365,085	94.9	△ 19569	51,784	50,264	1,520	71,353	69,824	1,529
奈良県	奈良市	354,630	336,006	94.7	△ 18624	59,349	34,215	25,134	77,973	23,759	54,214
大阪府	八尾市	264,642	250,399	94.6	△ 14243	46,562	37,660	8,902	60,805	55,467	5,338
神奈川県	横須賀市	388,078	357,706	92.2	△ 30372	36,852	33,844	3,008	67,224	50,998	16,226
千葉県	柏市	426,468	391,317	91.8	△ 35151	75,482	52,890	22,592	110,633	40,967	69,666
滋賀県	大津市	345,070	313,359	90.8	△ 31711	40,816	25,673	15,143	72,527	29,623	42,904
兵庫県	明石市	303,601	274,720	90.5	△ 28881	42,967	41,684	1,283	71,848	62,894	8,954
大阪府	枚方市	397,289	355,804	89.6	△ 41485	49,705	33,978	15,727	91,190	67,272	23,918
大阪府	豊中市	401,558	357,171	88.9	△ 44387	65,556	45,010	20,546	109,943	92,038	17,905
兵庫県	西宮市	485,587	430,122	88.6	△ 55465	75,738	53,734	22,004	131,203	62,427	68,776
大阪府	寝屋川市	229,733	203,414	88.5	△ 26319	33,902	28,858	5,044	60,221	53,862	6,359
愛知県	一宮市	380,073	334,135	87.9	△ 45938	38,546	27,737	10,809	84,484	70,841	13,643
大阪府	高槻市	352,698	309,698	87.8	△ 43000	41,856	30,538	11,318	84,856	62,509	22,347
埼玉県	越谷市	341,621	298,114	87.3	△ 43507	52,827	40,956	11,871	96,334	41,714	54,620
千葉県	船橋市	642,907	542,642	84.4	△ 100265	92,026	75,830	16,196	192,291	78,266	114,025
埼玉県	川口市	594,274	490,197	82.5	△ 104077	62,261	45,670	16,591	166,338	49,947	116,391

表-19 【中核市】 平成22年～令和2年 昼夜間人口比率【%】の状況

平成22年		平成27年		令和2年	
山梨県 甲府市	113.9	山梨県 甲府市	114.2	山梨県 甲府市	113.1
茨城県 水戸市	112.8	茨城県 水戸市	111.3	愛知県 豊田市	111.1
福井県 福井市	110.4	愛知県 豊田市	110.5	沖縄県 那覇市	109.3
沖縄県 那覇市	109.1	福井県 福井市	110.1	茨城県 水戸市	109.2
愛知県 豊田市	108.9	沖縄県 那覇市	109.6	福井県 福井市	109.1
石川県 金沢市	108	石川県 金沢市	107.9	石川県 金沢市	107.5
山形県 山形市	107.5	山形県 山形市	106.8	山形県 山形市	106.4
長野県 松本市	107.2	長野県 松本市	106.6	長野県 松本市	105.8
岩手県 盛岡市	106.4	富山県 富山市	105.8	富山県 富山市	105.5
富山県 富山市	106.3	岩手県 盛岡市	105.7	岩手県 盛岡市	104.4
福島県 郡山市	105.7	福島県 郡山市	105.1	青森県 八戸市	104.4
青森県 八戸市	105.1	青森県 八戸市	104.6	群馬県 前橋市	104.0
島根県 松江市	104.8	群馬県 前橋市	104.5	福島県 郡山市	103.7
秋田県 秋田市	104.6	和歌山県 和歌山市	104.5	秋田県 秋田市	103.7
栃木県 宇都宮市	104.6	秋田県 秋田市	104.4	大阪府 東大阪市	103.7
群馬県 前橋市	104.5	大阪府 東大阪市	103.8	和歌山県 和歌山市	103.7
香川県 高松市	104.5	栃木県 宇都宮市	103.7	栃木県 宇都宮市	103.3
和歌山県 和歌山市	104.4	島根県 松江市	103.6	島根県 松江市	103.0
長野県 長野市	104.2	香川県 高松市	103.6	鳥取県 鳥取市	103.0
岐阜県 岐阜市	103.8	長野県 長野市	103.6	長野県 長野市	103.0
鳥取県 鳥取市	103.7	岐阜県 岐阜市	103.4	香川県 高松市	102.9
福島県 福島市	103.5	長崎県 長崎市	103.3	福島県 福島市	102.8
大阪府 東大阪市	103.2	鳥取県 鳥取市	103.2	北海道 函館市	102.6
長崎県 長崎市	103.2	福島県 福島市	103.2	長崎県 長崎市	102.5
群馬県 高崎市	102.9	高知県 高知市	102.8	岐阜県 岐阜市	102.2
高知県 高知市	102.9	北海道 函館市	102.8	高知県 高知市	101.9
北海道 函館市	102.7	群馬県 高崎市	101.8	群馬県 高崎市	101.6
大分県 大分市	102.2	大分県 大分市	101.7	長崎県 佐世保市	101.5
宮崎県 宮崎市	102.1	宮崎県 宮崎市	101.6	青森県 青森市	101.4
青森県 青森市	101.7	青森県 青森市	101.5	宮崎県 宮崎市	101.3
鹿児島県 鹿児島市	101.5	鹿児島県 鹿児島市	101.4	大分県 大分市	101.2
愛媛県 松山市	101.3	長崎県 佐世保市	101.4	愛媛県 松山市	101.2
長崎県 佐世保市	101.3	愛媛県 松山市	101	鹿児島県 鹿児島市	101.0
兵庫県 姫路市	101.1	北海道 旭川市	100.6	北海道 旭川市	100.6
福岡県 久留米市	100.6	兵庫県 姫路市	100.5	兵庫県 姫路市	100.2
北海道 旭川市	100.5	広島県 福山市	100	広島県 福山市	99.8
広島県 福山市	100.4	東京都 八王子市	99.8	東京都 八王子市	99.1
東京都 八王子市	99.7	福岡県 久留米市	99.5	福岡県 久留米市	99.0
福島県 いわき市	99.5	岡山県 倉敷市	98.8	岡山県 倉敷市	99.0
岡山県 倉敷市	98.9	広島県 呉市	98.8	広島県 呉市	98.8
大阪府 吹田市	98.6	山口県 下関市	98.7	山口県 下関市	98.6
広島県 呉市	98.6	福島県 いわき市	98.3	福島県 いわき市	98.3
山口県 下関市	98.6	愛知県 豊橋市	97.1	愛知県 豊橋市	97.1
愛知県 豊橋市	97.9	大阪府 吹田市	96.9	埼玉県 川越市	96.8
埼玉県 川越市	97.1	埼玉県 川越市	96.6	兵庫県 尼崎市	96.6
兵庫県 尼崎市	96.8	兵庫県 尼崎市	96.3	大阪府 吹田市	96.2
大阪府 八尾市	95.7	奈良県 奈良市	94.8	愛知県 岡崎市	94.9
奈良県 奈良市	94.6	大阪府 八尾市	94.5	奈良県 奈良市	94.7
愛知県 岡崎市	93.9	愛知県 岡崎市	93.5	大阪府 八尾市	94.6
滋賀県 大津市	92.1	神奈川県 横須賀市	91.2	神奈川県 横須賀市	92.2
神奈川県 横須賀市	91.3	滋賀県 大津市	91.1	千葉県 柏市	91.8
兵庫県 明石市	90.1	千葉県 柏市	90.4	滋賀県 大津市	90.8
千葉県 柏市	89.8	兵庫県 西宮市	90	兵庫県 明石市	90.5
大阪府 豊中市	89.2	兵庫県 明石市	89.6	大阪府 枚方市	89.6
兵庫県 西宮市	89.2	大阪府 枚方市	88.8	大阪府 豊中市	88.9
大阪府 枚方市	87.8	大阪府 寝屋川市	88.8	兵庫県 西宮市	88.6
大阪府 寝屋川市	87.3	大阪府 豊中市	88.5	大阪府 寝屋川市	88.5
愛知県 一宮市	86.9	大阪府 高槻市	87.9	愛知県 一宮市	87.9
埼玉県 越谷市	86.7	埼玉県 越谷市	87.3	大阪府 高槻市	87.8
大阪府 高槻市	86.5	愛知県 一宮市	86.4	埼玉県 越谷市	87.3
千葉県 船橋市	84.2	千葉県 船橋市	84.2	千葉県 船橋市	84.4
埼玉県 川口市	83.7	埼玉県 川口市	82	埼玉県 川口市	82.5

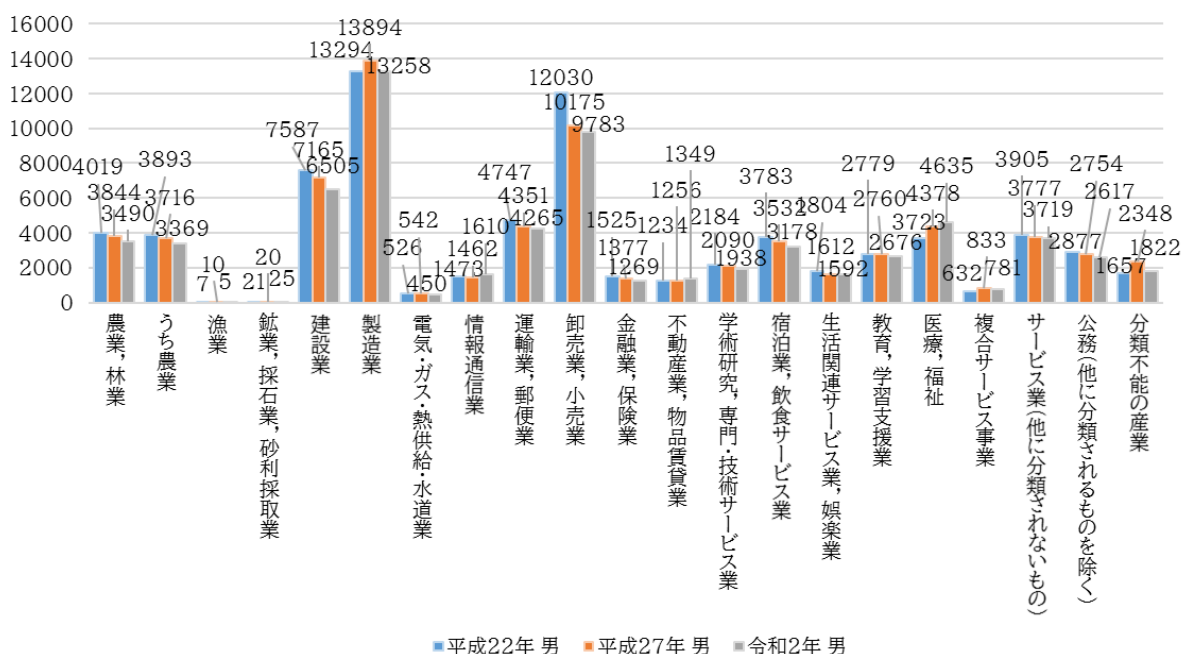
7 松本市の産業就業者数（産業大分類）の変化

松本市の産業別就業者数を男女別で比較すると、男性は製造業の就業者数が最も多く、次いで卸売業・小売業、建設業が多い結果でした。

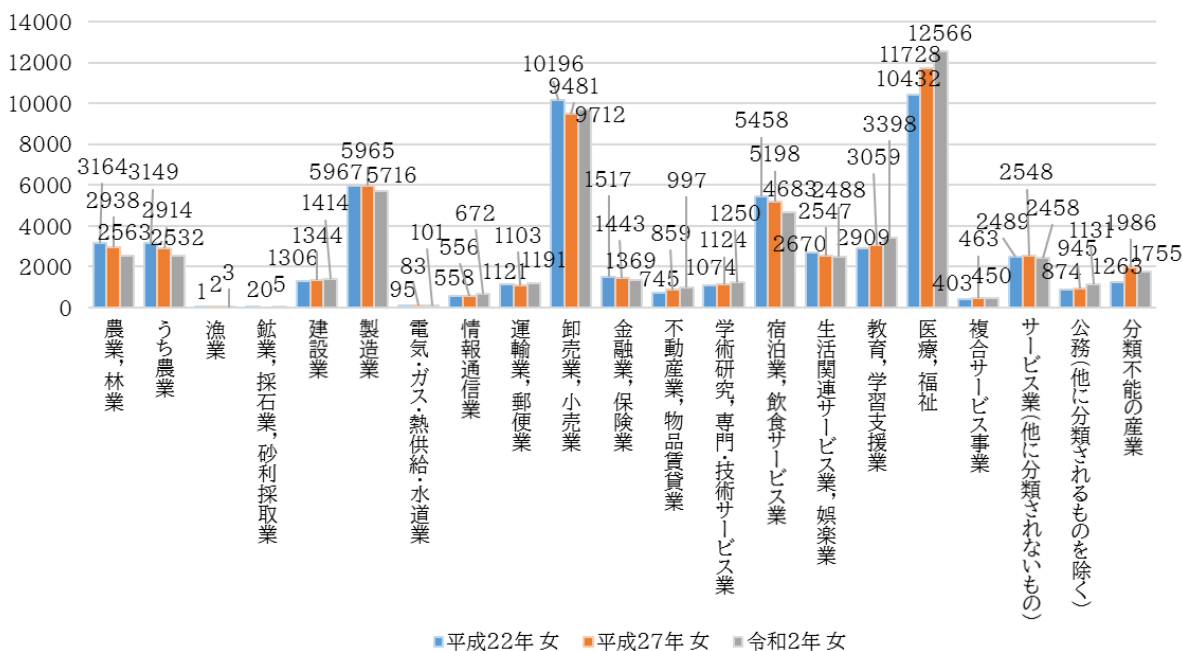
一方、女性は医療・福祉の就業者が最も多く、次いで卸売業・小売業、製造業が多くなりました。

また、平成22年～令和2年の推移をみると、医療・福祉の就業者数は男女ともに増加しています。

グラフ-10 平成22年～令和2年 産業別・就業者(男)



グラフ-11 平成22年～令和2年 産業別・就業者(女)



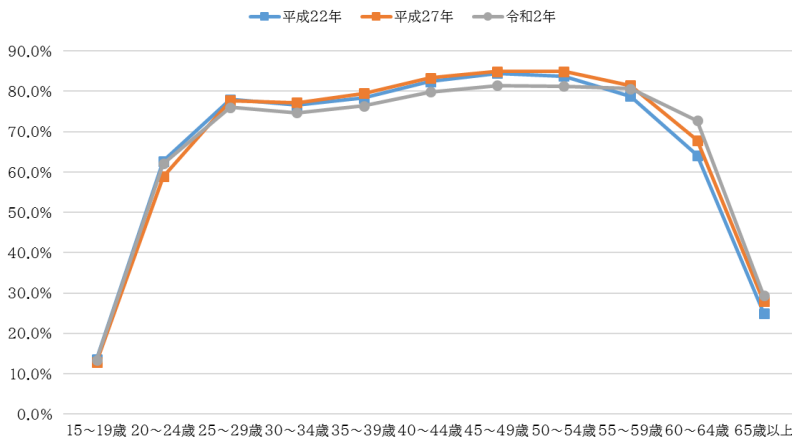
8 男女別年齢別就業率

(1) 松本市(総数)の年齢別就業率の推移

市内の5歳階級別就業率の推移をみると、15～24歳と60歳以上の年代は前回調査と比較すると増加しましたが、その他の年代は減少しました。

総数では年々就業率は低下しており、直近では0.8%減少しました。

グラフ-12 松本市(総数)の年齢別就業率の推移(平成22年～令和2年)



年齢	平成22年	平成27年	令和2年
15～19歳	13.6%	12.9%	13.5%
20～24歳	62.7%	58.9%	62.1%
25～29歳	78.0%	77.7%	76.1%
30～34歳	76.6%	77.2%	74.7%
35～39歳	78.3%	79.5%	76.4%
40～44歳	82.4%	83.3%	79.8%
45～49歳	84.5%	85.0%	81.5%
50～54歳	83.8%	84.9%	81.3%
55～59歳	78.7%	81.4%	80.7%
60～64歳	64.1%	67.9%	72.8%
65歳以上	25.0%	27.9%	29.3%
総数	59.1%	58.6%	57.8%

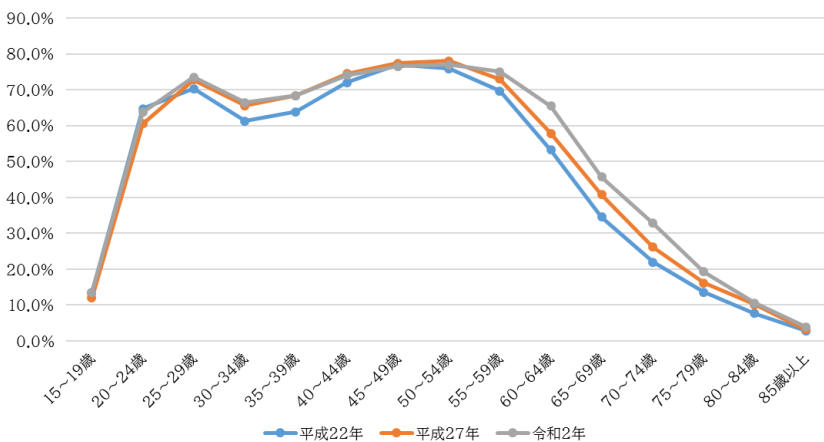
※年齢不詳者を含む

(2) 松本市(女)の年齢別就業率の推移

女性のみで平成22年から令和2年を比較すると、55歳以上の就業率の割合は近年で最も高い割合となりました。

また、女性は子育て期に離職する、いわゆるM字カーブがあり30～34歳の年代で就業率が低下しています。

グラフ-13 松本市(女)の年齢別就業率の推移(平成22年～令和2年)



年齢	平成22年	平成27年	令和2年
15～19歳	13.4%	12.0%	13.6%
20～24歳	64.7%	60.5%	63.7%
25～29歳	70.3%	72.8%	73.6%
30～34歳	61.3%	65.6%	66.4%
35～39歳	63.9%	68.4%	68.4%
40～44歳	72.0%	74.5%	74.1%
45～49歳	76.9%	77.4%	76.6%
50～54歳	75.9%	78.1%	77.0%
55～59歳	69.7%	73.0%	75.0%
60～64歳	53.3%	57.8%	65.5%
65～69歳	34.5%	40.8%	45.7%
70～74歳	22.0%	26.1%	32.9%
75～79歳	13.6%	16.1%	19.3%
80～84歳	7.6%	10.1%	10.6%
85歳以上	2.8%	3.2%	3.9%
総数(15歳以上)	48.8%	50.0%	51.0%

※年齢不詳者を含む

(3) 長野県・松本市の男女別年齢別就業率

長野県と男女別年齢別に比較すると男女ともに 15～19 歳の就業率は長野県より高く、その他の年代は県の数値が全て上回る結果となりました。

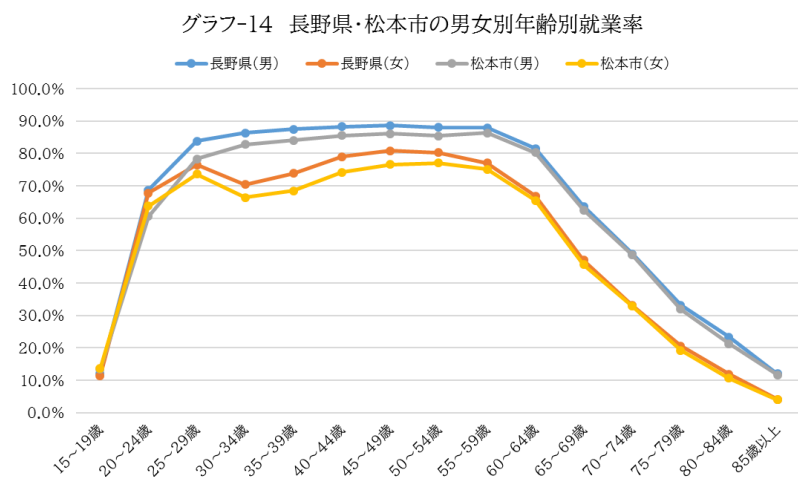


表-22 長野県・松本市の男女別年齢別就業率

年齢	長野県(男)	長野県(女)	松本市(男)	松本市(女)
15～19歳	12.0%	11.3%	13.3%	13.6%
20～24歳	68.7%	67.8%	60.6%	63.7%
25～29歳	83.8%	76.5%	78.3%	73.6%
30～34歳	86.3%	70.3%	82.7%	66.4%
35～39歳	87.4%	73.8%	84.1%	68.4%
40～44歳	88.3%	78.9%	85.5%	74.1%
45～49歳	88.7%	80.8%	86.1%	76.6%
50～54歳	88.0%	80.2%	85.4%	77.0%
55～59歳	87.9%	77.1%	86.3%	75.0%
60～64歳	81.6%	66.9%	80.3%	65.5%
65～69歳	63.7%	47.1%	62.5%	45.7%
70～74歳	48.9%	33.0%	48.7%	32.9%
75～79歳	33.2%	20.6%	31.9%	19.3%
80～84歳	23.3%	11.9%	21.3%	10.6%
85歳以上	12.0%	4.1%	11.6%	3.9%
総数	66.2%	51.5%	64.9%	51.0%

※年齢不詳者を含む

9 従業地または通学地までの利用交通手段

国勢調査では、従業地または通学地についての調査項目があり、ここでは、従業地・通学地までの利用交通手段について集計しています(二つ以上の交通手段を利用する場合は、該当するものを全て記入)

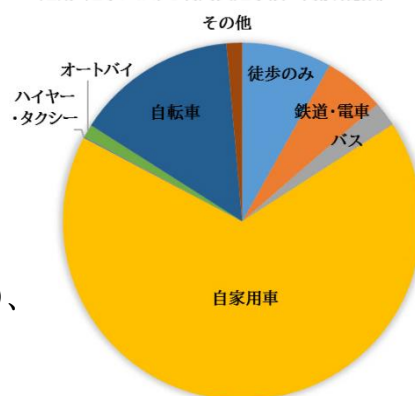
(1) 全体状況

表-23 通勤・通学における利用交通手段の内訳(総数)

徒歩のみ	鉄道・電車	バス	自家用車	ハイヤー・タクシー	オートバイ	自転車	その他
9,729人 (8.1%)	6,600人 (5.5%)	2,716人 (2.3%)	80,213人 (66.9%)	118人 (0.1%)	1,419人 (1.2%)	17,470人 (14.6%)	1,684人 (1.4%)

※利用交通手段「不詳」は除く

グラフ-15
通勤・通学における利用交通手段の内訳(総数)



(2) 徒歩の割合

徒歩の割合が高い地域は深志(33.4%)、中央(32.9%)、安曇(29.0%)となり、割合が低い地域は中山台、今井、和田が同率(1.9%)となりました。

(3) 自家用車の割合

自家用車の割合はどの地域も高く、最も高いのは四賀(87.0%)、最も低いのは美須々(30.9%)となりました。

(4) 自転車の割合

自転車の割合が高い地域は女鳥羽(36.8%)、元町(33.7%)、城東(31.0%)となり、割合が低い地域は四賀(1.9%)、安曇(2.4%)、奈川(3.1%)となりました。

(5) バスの割合

バスの割合が高い地域は美須々(9.9%)、元町(6.1%)、桐(5.6%)となり、割合が低い地域は丸の内(0.0%)、芳野(0.5%)、奈川(0.8%)となりました。

表-24 令和2年国勢調査 利用交通手段別通勤者・通学者割合上位10地域(15歳以上) - 町丁・字等

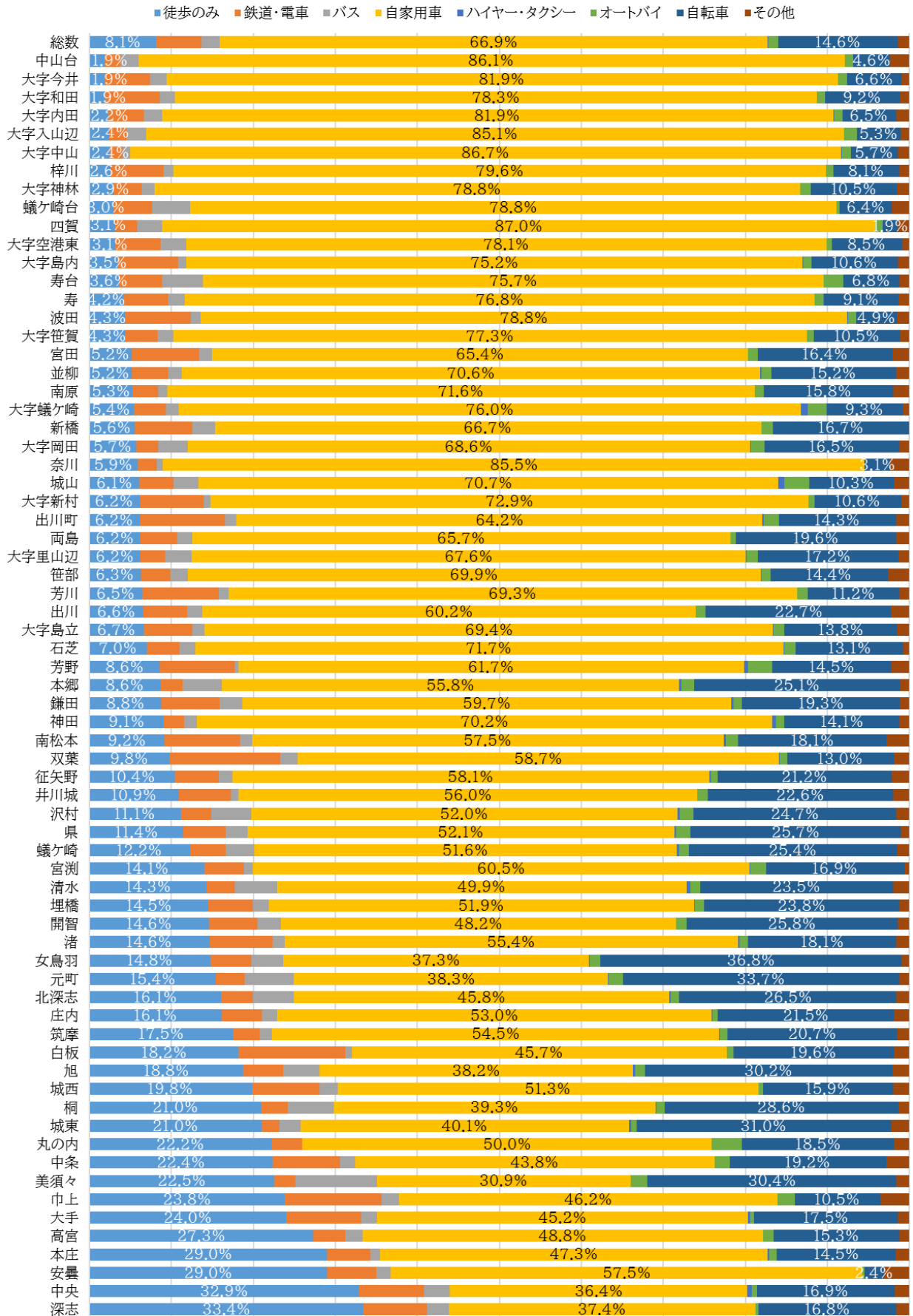
順位	地域名	徒歩のみ	地域名	自家用車	地域名	自転車
1	深志	33.4%	四賀	87.0%	女鳥羽	36.8%
2	中央	32.9%	大字中山	86.7%	元町	33.7%
3	安曇	29.0%	中山台	86.1%	城東	31.0%
4	本庄	29.0%	奈川	85.5%	美須々	30.4%
5	高宮	27.3%	大字入山辺	85.1%	旭	30.2%
6	大手	24.0%	大字今井	81.9%	桐	28.6%
7	巾上	23.8%	大字内田	81.9%	北深志	26.5%
8	美須々	22.5%	梓川	79.6%	開智	25.8%
9	中条	22.4%	波田	78.8%	県	25.7%
10	丸の内	22.2%	蟻ヶ崎台	78.8%	蟻ヶ崎	25.4%

順位	地域名	鉄道・電車	地域名	バス	地域名	ハイヤー・タクシー	地域名	オートバイ
1	双葉	13.5%	美須々	9.9%	大字蟻ヶ崎	0.8%	丸の内	3.7%
2	白板	13.0%	元町	6.1%	城山	0.8%	城山	3.0%
3	巾上	11.9%	桐	5.6%	清水	0.5%	芳野	2.9%
4	出川町	10.3%	清水	5.1%	中央	0.5%	寿台	2.4%
5	芳川	9.3%	北深志	5.0%	芳野	0.5%	大字蟻ヶ崎	2.3%
6	南松本	9.2%	寿台	5.0%	神田	0.4%	巾上	2.1%
7	大手	9.1%	沢村	4.9%	城東	0.3%	美須々	2.1%
8	芳野	9.1%	本郷	4.8%	大手	0.3%	宮淵	1.9%
9	宮田	8.2%	蟻ヶ崎台	4.7%	旭	0.3%	中条	1.8%
10	中条	8.2%	旭	4.5%	本郷	0.3%	出川町	1.8%

※利用交通手段「不詳」は除く

(4) 利用交通手段：徒歩の少ない順

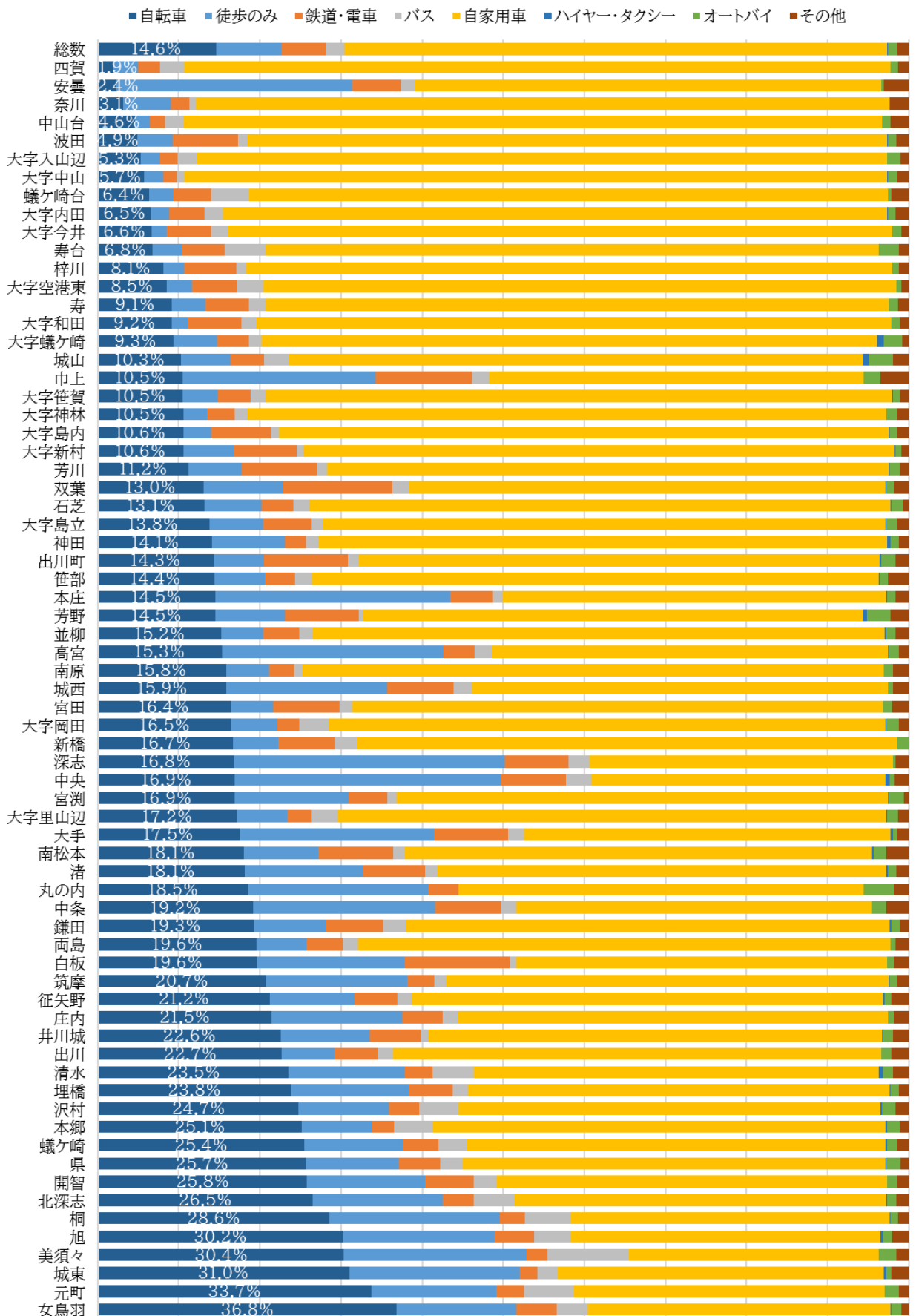
グラフ-16 令和2年国勢調査 利用交通手段別通勤者・通学者数(15歳以上)－町丁・字等



※利用交通手段「不詳」を除く

(5) 利用交通手段：自転車の少ない順

グラフ-17 令和2年国勢調査 利用交通手段別通勤者・通学者数(15歳以上)－町丁・字等

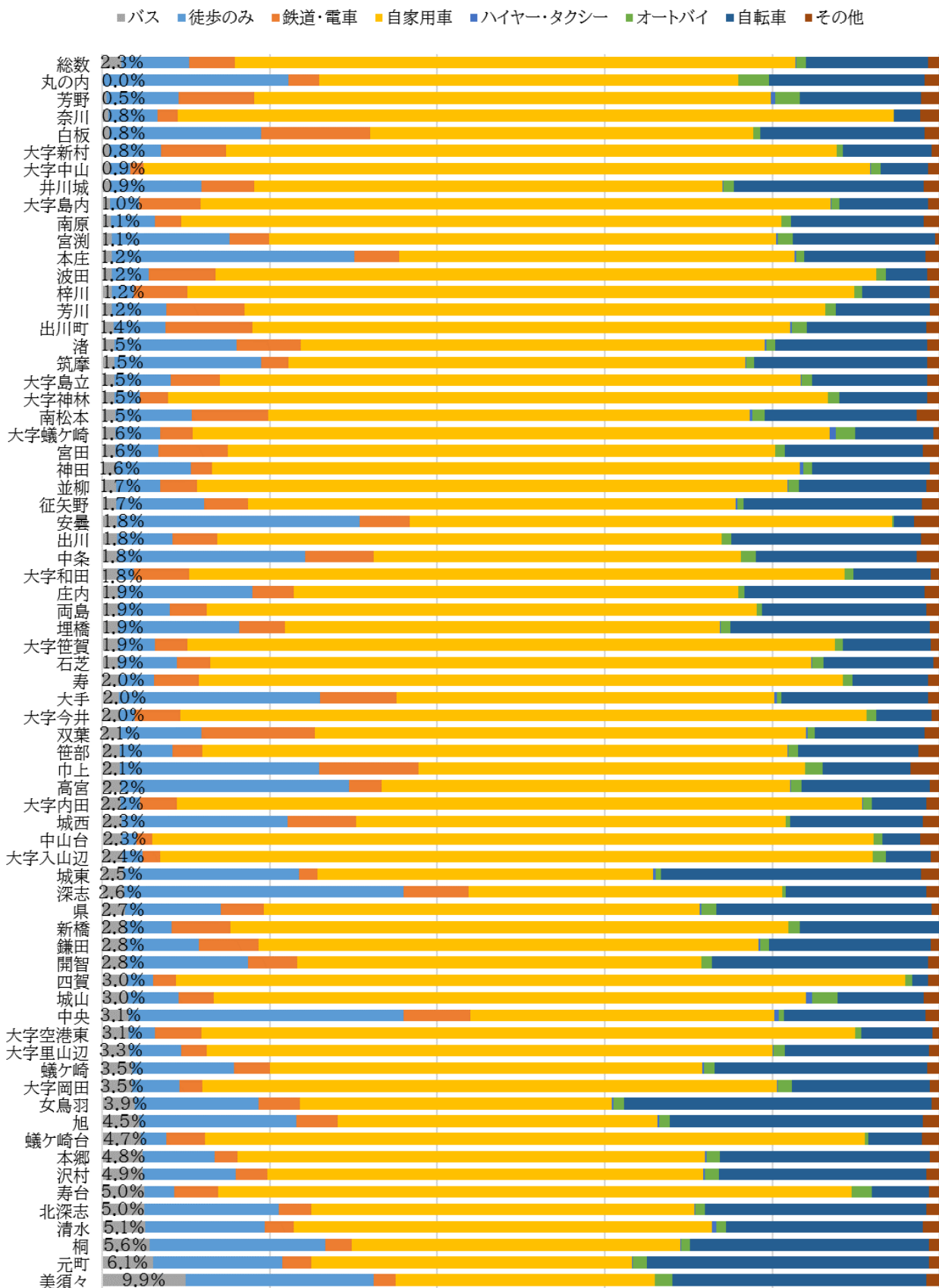


※利用交通手段「不詳」を除く

(6) 利用交通手段：バスの少ない順

※ バスは「乗合バス」・「勤め先・学校バス」をあわせた数値です。

グラフ-18 令和2年国勢調査 利用交通手段別通勤者・通学者数(15歳以上)－町丁・字等



※利用交通手段「不詳」を除く

10 まとめ

(1) 人口と年齢構成について

ア 前回調査から総人口は減少し、世帯数は増加

イ 年齢3区分人口構成では、年少人口割合と生産年齢人口割合は減少し、老年人口割合は増加しており、少子高齢化が進んでいる。

ウ 県内19市の中では、年少人口割合は高い方から2位、生産年齢人口割合は最も高く、逆に老年人口割合は最も低く、県内では最も年齢構成の低い都市と言える。

エ 中核市62市の中では、年少人口割合は27位、生産年齢人口割合は25位、老年人口割合は41位と概ね中位だが、年少人口・生産年齢人口割合は平均値より高い。

オ 松本市・安曇野市・塩尻市の3市は、県内では前回調査からの人口増減率が増加または減少率が低い市となっており、松本地域は19市の中で相対的に人口が保たれている地域と言える。

カ 世帯の状況では、単独世帯が大きく増加し、次いで夫婦のみ及び夫婦と子のみの核家族が増加している。単独世帯の増加は、高齢化の進展や生涯未婚率の高まり等の要因が考えられる。

(2) 流入・流出人口と昼夜間人口比率

ア 松本市は昼夜間人口比率が100%を超え流入超過の状況であり、周辺市町村からの流入人口が、松本市の生産や消費に寄与していることが考えられる。

イ 松本市への流入人口は安曇野市、塩尻市、山形村が上位の状況

ウ 松本市からの流出人口は塩尻市、安曇野市、山形村が上位の状況

エ 昼夜間人口比率は、19市、中核市のいずれの中でも高い状況にあり、松本市は中心都市型と言える。(表-17、表-19)

なお、昼夜間人口比率は低下傾向だが、令和2年国勢調査では、コロナ禍の影響もあり、全国的に昼夜間人口比率は低下している状況。

オ 中核市の状況を見ると、昼夜間人口比率が100%未満のいわゆるベットタウン型の都市で、人口が増加している都市が多い傾向がある。

カ 昼夜間人口比率が100%以上の都市は、地方の中心都市性が高い市が多い傾向がある。

(3) 小地域集計

ア 松本市内では美須々や桐の生産年齢人口割合が高く、また同地域では、利用交通手段として徒歩や自転車、バスの割合が高かった。

これは信州大学の学生の居住地域であることが要因として考えられる。

イ 征矢野、高宮、出川、白板は生産年齢人口割合が高く、その要因として同地域ではファミリー向けマンションの建設が進んでいることが考えられる。

近年は、50戸以上あるマンションの建設が市の中心部で進んでおり、そういった地域では今後大きく年齢人口割合が変化する可能性がある。

実際に城西はマンション建設や松本城南・西外堀復元事業によって、老年人口割合が低下し、年齢人口割合が大きく変化した。

ウ 老年人口割合が高い地域は大字蟻ヶ崎、奈川、丸の内、入山辺、四賀の順となっており、山間地だけでなく、市中心部でも高齢化が進んだ地域がある。

エ 利用交通手段で徒歩の割合が高い地域は、深志、中央、安曇、本庄、高宮の順となっており、商業集積地が近い地域や中心市街地が多くなっている。

なお、安曇は山間地だが、上高地が含まれ、調査基準日は閉山前であったことから、宿泊施設勤務の従業員が影響して徒歩割合が高くなっていると考えられる。

オ 利用交通手段で自転車の割合が高い地域は、女鳥羽、元町、城東、美須々、旭の順となっており、信州大学や高等学校が集積する地域とその周辺地域で自転車割合が高くなっていると考えられる。